京城日報 夕刊 一月二日(木)

宮中拜賀

拜賀第一日

天皇、皇后兩陛下には宮城に在らせられ文武百官の拜賀をうけさせらるめでたき元旦 天皇陛下には朝まだきよりの御儀(四方拜の御儀、歳旦祭の御儀、晴の御膳の御儀)御終了後の午前十時(皇后陛下は御服装中にてその御儀なし)豊明殿第一二の間に出御、秩父宮、同妃、高松宮、閑院宮外各皇族殿下に親しく御謁の間にて御次拜賀をうけさせられ、年の初めの御挨拶を御嘉納になつた 天皇陛下にはこの日いと嚴かと拜する陸軍式大元帥の御正装を召され、勲花大綬章その他數多の勲章を佩ばせ給ふて、皇族殿下の拜賀を終らせられると一木宮相、林式部長官の御前行、奈良侍從武官長、鈴木侍從長の供奉、秩父宮、同妃、閑院宮、同妃殿下御行列に扈從申上げて正殿に御出御あらせられ

この朝昭和の五年の光に輝いた晴れとも晴れと二重橋の門より參内した東郷大勲位、濱口首相、倉富樞府議長、前官禮遇、陸海軍大將、樞府顧問官、親任官、貴衆兩院議長、勲一等功一級、同待遇、公侯爵、第一位勲一等の有爵者は夫々美しく飾つて大禮服或は正裝にて、夫人はマント・ド・クールにて西溜間に參集、陛下出御の前を拜して同十時十分順次正殿に參進、拜賀を申上げた。かくて天皇陛下には十時四十分入御、同十一時より更に同正殿にて臨時の宮中席次第三階以上の勅任官以下奏任待遇以上職員の拜賀をうけさせられ、十一時五分には宮内…

拜賀第二日

宮中第二日拜賀當日、天皇陛下には元旦御同樣、晴の御膳を聞し召された上、午前十時大元帥の御正裝に大勲位菊花章頸飾を佩ばせた御盛裝にてのへされ 林式部長官、一木宮相御前行、鈴木侍從長以下侍從供奉、秩父宮同妃兩殿下外各皇族、同妃殿下御陪從にて正殿に出御、こゝにて宮中席次第三階第二十八乃至第三十八の者、同夫人、第二、三等の外國人、同夫人に謁し一々列立の拜賀を受けさせられた後、十一時より豊明殿に出御、西溜間などに列せる宮中席次第四階以下の高等官等に九時まで拜賀をうけさせられ、同十一時半入御遊ばされた。午後一時から四時までは正七位以上、功六級、勲七等以下の拜賀の人に拜賀をうけさせられ、同十一時半で二日間の拜賀は終るが如くであつた

本府拜賀式

總督府の新年拜賀式は元旦午前十時五十分から第一會議室で、同十一時二十分から各局長、部長、總督府の高等官、朝鮮神宮宮司、京城府尹、中樞院顧問、同參議、同十一時三十分から有位有勲者を除いた總督府判任官および同待遇者の順序を以て行はれた

昌德宮に伺候

總督府の拜賀式終了後直ちに兒玉政務總監はじめ各局長、南軍司令官等は昌德宮に伺候した

飽まで解散斷行
二十二、三日頃か 遲くも廿四五日

【東京電話】政府は本年の議會に臨むに於いて、議會をはじめ各方面の情勢に鑑み、政府の議會における多數獲得の結果は五十八票の差を以て敗れたので、かゝる情勢を以て今議會を乘切る事は如何に政友會が解散回避の妥協的態度に出ても到底困難なるのみならず、解散は今や輿論の趨勢なる以上、解散は動かすべからざるものなりとの見地から、結局二十日の御用始を待ち出しに六日の臨時閣議を開き十五日の政府與黨會議を求め二十二日の閣議に至るまで終始解散斷行を目標に作戰を練る筈であるが、更に濱口首相は十一日又は十八日興津に西園寺公を訪ひ挨拶かたがた政府の經過をはじめ一般政情につき詳細報告をなし、休會明けの議會に臨む態度解散必至の情勢を力說する筈であるが、更に解散の時期は依然施政方針演說に對する質問をある程度まで許した上二十二、三日又は遲くも二十四五日頃であると

我全權團構成決定
卅日協議の結果

【ロンドン卅日發聯合】日本全權團は三十日協議の結果、全權團の構成を左の如く決定した 全權直屬として顧問並に事務總長として佐藤尚武氏、秘書課長として武富敏彦氏を置き、事務總長の下に外交部長齋藤博氏、情報部長堀義貴氏、總務部長佐藤尚武氏(兼)、海軍部長左近司政三氏、陸軍部長前田利爲侯、大藏部長津島壽一氏を置き、更に總務部長の下に會計課長加藤外松氏、法制課長栗山茂氏、庶務課長中山詳一氏を配す

御親電に御答電
米國大統領から

【ワシントン卅一日發電】アメリカ大統領フーヴァー氏は若槻全權一行歡迎に際する日本天皇陛下の御親電に答へて左の如く述べた 予及び予の夫人は共にロンドン海軍縮小會議日本全權若槻氏一行がロンドン行の途中ワシントンに立寄つた際我等の賓客として彼等を歡迎することを得たるを愉快とした。我等は若槻全權一行の我首都訪問が愉快のものであつたことを聞いて喜ぶものである、又ロンドン會議に參加すべきアメリカ全權は日本全權と會見し更に彼等の後を追ふて同地に赴くことを最も喜んでゐた、而してアメリカ全權は來るべき會議に於て日本全權の好意に酬ひて眞摯なる協調を爲すべく希望してゐた

佛國覺書と伊紙の批評

【ローマ一日發】當地紙ジオルナル・デ・イタリアはロンドン海軍會議に關するフランスの覺書を批評し「右覺書中のフランスの要求は無理少くとも平和愛好の念に悖り過度且過大であるといへることを發見するといひ、左の如く述べた 數個の點に關するイタリーとフランスとの協定即ち各種の軍備の相殺ること、軍備縮小政策に各國ともに贊成すること、及び予てイタリーに於て可能なり…

政治的保障條項を加へたい
佛外相米國大使に洩らす

【パリ一日發電】フランス外務大臣ブリアン氏は十二月十四日駐佛アメリカ新大使を迎へた際、一九二二年ワシントンで締結された太平洋條約第一條に規定されたものに類似せる政治的保障條項をロンドン五ヶ國海軍會議で締結さるべき海軍軍縮條約中にも挿入してほしい旨をもらしたとフランス側では傳へてゐる 信ずる地中海沿岸各國の間に非侵略相互保障を爲すことと等にて協定することが出來たならば佛國もこの種の協定を結ぶこととなると伊佛兩國の地中海に於ける海軍力均勢の問題を論ずることが出來るやうな場合に至りはせないかとの疑惑を生ぜしめる、なほ右覺書は伊佛兩國の國際聯盟規約第三條と不戰條約をも擊ち退けんと試みてゐる、然かも列國は結局ロンドン海軍會議をして海軍々備の的確なる…

新艦隊組織
佛伊の均勢打破 佛國海相の發表

【パリ卅一日發電】フランス海相レーグ氏は本日閣議席上アフリカ西部、地中海、太平洋等の駐屯フランス艦隊の補助として驅逐艦、巡洋艦、潛水艦を組織する計畫を發表した。右計畫はフランス艦隊にとりイタリーの提議せる佛伊海軍均勢の原則を全く無視したものなるが、フランスはロンドン會議にてこれが新艦隊の維持を國防の保障のため必須のものとして主張するはずである

年頭所感
朝鮮軍司令官 南次郎

茲に諸君と共に昭和五年の新春を迎ふる事は誠に御同慶の至りである。

顧るに 昨昭和四年の朝鮮は大體に於て先づ無事平穩に終始したが、私の樣に始めて朝鮮に在任しその經過に過ぎない半年の間に考へさせらるゝ出來事も少くなかつた。例へば朝鮮部隊の御親閲式、施政二十周年記念博覽會、共進會、總督等々の如きがそれである。その他人事として總督、總監、軍司令官の更迭を始めとし、軍部には全般に亘る官吏の大異動があり、何れも朝鮮に取りては重大な出來事であつた。

右の內 諸部隊御親閲式に畏くも、閑院宮殿下の台臨を辱ふし、優渥なる令旨を賜はりし事は我が軍隊の光榮にして、御親閲を受けて無上の感激を受けた。これによりて在鮮軍人諸君は一層その團結を鞏固にし軍人精神を發揚し、體力及び武技の錬磨向上に努めなければならぬといふ事を痛感せしめらるる、將兵士は一層その本分を守り身心を鍛錬して將來有爲の國民たるべく、又在郷軍人その他の諸君は一層社會の中堅として益々公私の職務に精勵し奮闘して各々從はん事を期せしめた事と思ふ

朝鮮博 覽會に於ては過去二十年間の朝鮮に於ける産業文化の進步發達の跡を內外に展示し盛況裡に終つたのであつたが、在鮮官民各位の絶大なる努力を謝し得たと同時に半島將來の發展に係はらず、朝鮮に取りて甚だ好ましからぬ不祥事であるが、之は朝鮮に取りては將來これが對策に就ては深甚の注意を拂ふべき事を教へられたのである。「溫古知新」とは古い言葉であるが、その眞理は常に新しい。その過去を顧みても如上の樣な各種の出來事を吾々は體驗した。この

體驗に 鑑みて昭和五年の新春初頭に際し「本年は何を爲すべきか」を考定せねばならぬ、然らば如何なることを考定すべきかと云へば、大して六ケ敷ことではない、只過去に於ける體驗を善用し、更に時代の進步と趨勢とに鑑みて、新なる勇氣を起し、各その本分に適應すれば宜しいのである。例へば昨年の朝鮮博の如き事業を…

行動に 對しては、內鮮人一致協同し斷乎としてこれに反對し、然して正道に善導するの努力と手段を採ればよろしいのである 現下我國內外の情勢は決して寸時の偸安を許さない情況にあるが、加ふるに…

帝國の 北門たる朝鮮は殊に…支那大陸に經濟的に平和裡に大陸に發展せんとする根據地である。故にこの地に在住する吾人はこの使命を自覺し以て精神を緊張し、以て各々その本務に邁進するを要すると思ふのである。聊か所懐を述べて年頭の辭とする次第である。

在郷軍人に對する年頭の辭
第二十師團長 上原平太郎

今上陛下踐祚あらせられてより早くも四年の平和なる新春を迎へ、皇基は盤石の重きを加へ我等赤子として誠に感激に堪へず、今や朝鮮に於ける在郷軍人會の狀態を見るに、會員の協力と地方官民の後援とにより逐年發達し好況にあり、殊に昨秋は畏くも閑院宮殿下の台臨を仰ぎ全鮮在郷軍人大會を開催し、又優渥なる令旨を賜ひ、洵に感激の至りに堪へない。併し乍ら仔細に內に省みるとき振ふべくして振はざる分會果して何の理まり、宜しからざるもの、若は會員の協力ならずして修養團體たる實績の擧らざるもの若は會員間意思の疎通を缺ぐ等一段反省し精進を要するものあるは殊に遺憾である。而して外地多事此時に當つて會員諸子は在郷軍人たるの任務に鑑み宜しく各々自己の修養に努むると共に內鮮融和の行實向上に專心し、以て本會の隆盛を圖ると共に國民精神の作興に貢獻し、以て聖慮の萬一に報い奉らむことを期すに堪へない。茲に改曆の劈頭に當り蕪辭を草し、併せて在郷軍人の發展と會員諸君の健康を祈り、前途の多幸を祝福する次第である。

産糖協定
最後的決定成る

【東京電報】昭和五年度産糖協定の最後的協定をなすべき糖業聯合會の幹事會は三十一日午前十時より日本工業倶樂部において開催、長時間の論議を重ねた結果、午後六時にいたり漸く決定し各社調印をした、協定の大綱は左の通りである

一、産糖割當(單位千ピクル)

南糖保想	三、一七八
環糖棚上げ	四〇七
一種糖	一、一五〇
高白糖	一、五六六
精糖內地	五、三三〇
同 朝鮮	三三三
決定原料	六、四〇〇

二、協定期間

一月以降昭和六年一月末までの十三ヶ月間、但し一種糖は二月以降昭和六年一年末までの十二ヶ月間

四、需要額受渡期間を一月以降一月迄の四ヶ月間並に五月以降十月迄の六ヶ月間及び八月以降十二月迄の五ヶ月間の四ヶ月間、但し發賣後の分に對しては實賣値段を百斤につき十圓五十錢とすること

四、入目は必ず一斤以上を入れることとし一斤までは正算に入れざること

五、包裝は新麻袋を使用すること

領事裁判權撤廢に憤慨
米國政府駐支領事に命令

【南京電報】支那の領事裁判權撤廢宣言に憤慨した米政府は南京駐在米國領事に對し蔣介石氏との會見を取止めるよう命令して來たと傳へられて居る

治外法權撤廢へ進む日
支那の治法撤廢に對する英外相の覺書

【ロンドン卅一日發電】イギリス外相ヘンダーソン氏は當地駐在支那公使施肇基氏に覺書を送り、支那現在の形勢に鑑み一月一日より治外法權を撤廢せんとする支那の要求に應じ外交的交渉を開始すべき旨通告し左の如く述べた 支那政府が治外法權撤廢を要求するに就て千九百三十年一月一日を期限とし之を實施することは支那政府をして若干の面倒に直面せしめることを認めてゐる、即ち支那政府に於て一月一日より治外法權を撤廢せんとするもその期限內に治外法權撤廢に向つて何等進展を見ない限り、支那は著しく困難な事態に陷るものと見ねばならぬ、從つてイギリス政府は千九百三十年一月一日を以て治外法權撤廢の日でなく治外法權撤廢に向つて準備を開始すべき日として見るべきことに同意せんとする、即ち支那における治外法權撤廢の原則を認め既にその原則に於て各國これを承認し既にその日が來て居る、其の態度を決定すべき宣言を出すことは何の無駄をも示さぬのである

支那政府は列國の擁護する既得權…治外法權撤廢問題に同意し喜ぶべき現象とるることが出來る、イギリス政府は英米兩國政府により治外法權撤廢に關する改訂の方法とプログラムにつき協定を遂げるため出來る限り速に支那政府と交涉を開く用意がある 右聲明中には支那公使のステートメント發表されたが、支那政府は…した事と認める、かゝる見解の下に支那に寄せられる總ての賢賞を以て支那政府が治法撤廢に好都合なものといてよいといふ英政府のステートメントは英支兩國間における友誼を表示したものと確信するといつてゐる

印度自治要求決議案通過
◇…全印度會議の決定

【ラホール卅一日發電】全印度國民會議は殆ど滿場一致で印度自治運動の急先鋒ガンヂー氏の完全な自治を要求しかつ右目的達成するまではボイコットをすることを阻止しない決議を要求する決議案を通過した、ガンヂー氏は右決議案を說明し、激越なる演說をなし、大衆の努力を鼓舞した。その決議案を緩和せんとする若干の修正案も出たが總て否決された。

對支外交
難關に直面

【北平卅一日發電】一九三〇年の支那問題は日本に取り極めて重大かつ困難な局面の下に直面すべしと觀測さる

第一 は元旦より實施の支那の所謂治外法權撤廢問題に國際協調を破り列國の合的意を與へたため、直接重大の關係を持つ日本は結局列國の先頭となり最後の難關を凌ぐべく、支那側の戰術として手痛き日貨排斥を採るべきこと明かである

第二 は一月一日より現行の稅率を改め新稅率を實施すべく準備中であるが、五項稅率の如何に我が對支貿易に重大影響を及ぼすや餘りに明瞭な事實である。對支貿易の發展から國內經濟界の窮乏を免れず、各國の利害に係甚しく相違する處から治外法權撤廢に同調し或は離れ一年たるやも知れず

第三 は英國の租界返還の聲に續いて租界地回收に移り、旅大回收を得つて國民政府の目標たらしめへく、期する如く英國が支那の回收を手段として、派遣の容赦なき支那要求の…を傷け面目を毀損されんとするおそれあり、わが政府は速かに根本方針確立を緊要とするものと見られる

總督官邸の新年招宴

五、六、七の三日間總督總監は總督官邸において左の如き日程により盛大なる新年宴會を催すはずである

▲五日午後六時より朝鮮貴族、民間有志、本府局部長等百餘名を招待

▲六日午後六時より外國領事團數十名を招待

▲七日午後六時より新聞通信雜誌代表を招待

神宮參拜

(二日)總數二六〇〇四人、內譯▲內地人二五八七九人▲朝鮮人一五三人▲支那人三三八人

＝人＝

◇押原參吉氏(昭和生命京城支店長)二日夜行出發東上

◇宮崎鐵之助氏 夫人よし子は二日朝六時死去、三日午後二時半より龍山漢江通り自宅にて告別式を行ふ

元日の天氣(3)

大陸高氣壓は滿洲北部から朝鮮に掛かつてゐるが、都東海の北部と日本海とに低氣壓があつて共に北上に進んでゐるため全鮮一般に曇つて北鮮岸には風雪がある 明日は曇り勝ちで少し寒くなる

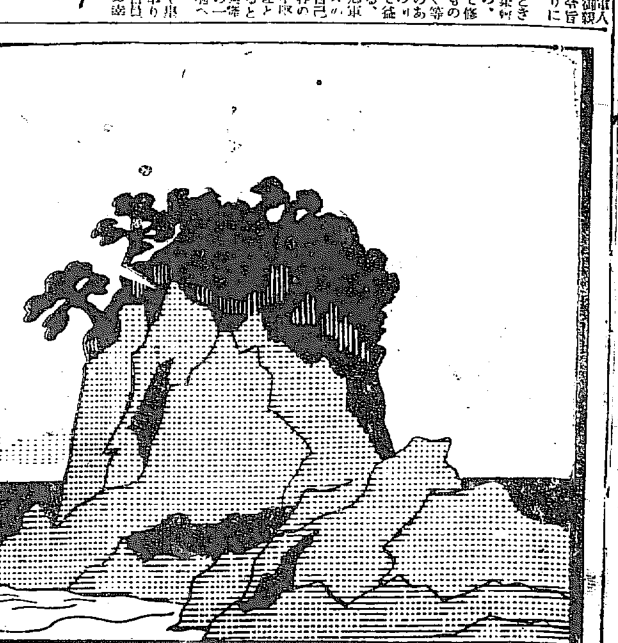
豫報 曇一時晴

二日正午 三・二(度) 二日最低 零下六・〇(度)

暴風警報(仁川測候所午前八時三十九分發) 北方至急の風強し、隠南北岸を發表す、低氣壓は東海の北部にあつて七六〇ミリを示し東に進んでゐる

本日夕刊十二頁

寫眞＝(上)朝鮮神宮の四方拜祭儀、(下)正裝の齋藤總督(總督官邸玄關にて)



謹て新年の御祝詞を申上げます

舊年中は格別の御引立を蒙り難有厚く御禮申上げます 扨て本年は科學的設備を施せる新大工場の竣成と共に愈々大量製産の實を擧げ以て緊縮時代に順應し良品を廉價に提供すると云ふ一大目標に邁進し御愛用家皆樣の御期待に副ふやう最善の努力致したいと存じます 何卒一層の御寵愛賜らん事を只管御願申上げます

昭和五年元旦

嶋屋釀造所主

キッコーユウ醬油

のどかに明けて 輝く昭五の新春

おめでたづくの連發に 景氣づく新裝の街々

『明けましてお目出たう』あはたゞしかつた暮れも明けてさすがに一九三〇年の元旦は朗らかな悦びに迎へられた。どことなく靜けさをたゝえた本町筋は國旗の人群に彼斯し時あつて酩酊した紋付姿の紳士が道狹しとばかり何かわからぬ事を大聲して妙に景氣してゐるのやシルクハツトにモーニングを着たお役人の一團が太平通りを颯いペーヴメントを濶歩しながら行き過ぎる路傍の通行者に眺彼の年賀狀に汗だくの郵便配達夫さん、今日のみは赤い顏して大きな包のカバンを肩に戶口々々に運來の郵便屋さん赤い顏と常にない張氣のいゝ朗らかな『お目出度う』の聲である。そして家の內からは爆發するやうな笑ひ、それにつゞいて年賀狀を奪ひとらうとする子供の一團がドアを押し開けて溢れて來る。郵便屋さんも忙しいが今日だけは張合のある配達であらう、子供の一團に圍い微笑を送りながらつぎの配達にと走つてゆく。辻や家並の路々には少女達の羽根つき、少年のこまいはしどこからか百人一首の一節がはれぐ\しく聞えてそして流れる樣な笑ひと喜びのさんざめきである。

◇

除夜の鐘が若草町の本願寺をはじめに寺々、鐘倉堂から鳴りひびいてゐると同時にまつてゐた人々が朝鮮神宮、京城神社におしかけ、社前は初詣の人々で一段ゆらくと燃え盛る大篝火を圍んで、いづれも迎春の祈願をなす、今年は昨年より多く夜の更ける頃から明方にかけ初詣の人々は引きも切らずてあの長い社階を踏んだ、朝鮮神宮は約三萬二千、京城神社は六萬の人々が詣でた。國旗に賀式にそしてお目出度うと滿に元旦は悦びに溢れ、二日はほのぼのたる黎明の曙を破る初荷の勇ましい太鼓の音に明けた紙の匂ひも新しい絆天に染拔きも鮮やかな幟を揚げた商店の初荷が何十臺となく車にのせられ、自動車にゆられ威をふりくく勇ましく街頭を突き走つて行く、年末警戒で大賑であつた警察署も明けて元旦となると打つて變つた靜穩さを呈し當直の警官が五、六人燈火の赤々と燃えるストーブを圍繞して平穩であつた昨年と文字通りお目出たかつた元旦を祝ひ合つてゐる、そのかたはらの机の上には昨年度の『醉漢』かゝるであらう五年度の『醉漢放免記錄簿』『署內日誌』『重要犯罪手配』といつたものに埋まつてゐる。『何か事故がありましたか』と訊ねると火鉢で赤ばんだ顏に喜びを見せて『お目出たう』といふばかり。正月興行として館打つて出る府內劇場はますます盛況

新年フオート 上は京城名刺交換會、下は初荷

庚午の飛躍は まづ商店街から

ハッピ姿りゝしく 威勢の好い初荷

陽光に輝く昭和五歳の第二日は喜物皆喜びの裡に曙と明け初めた職業姿のゆき姿ふた晴れ着き元旦の空氣とは打つて變つて今日第二日は

朝 まだき頃から本町通りを始頭に府內各商店の門扉は威勢よく開かれて、今年こそはと意氣込んだ商店街の空氣は、はなやかな…を包んで…火を點けるが、姉さ…緊張が漲ちて居る『正月』と蝶も商店街ならでは聞けぬ賑はしさ、不景氣をかこつて居た昨年の暮より用意されて居た元旦の背から催はつた初荷が陸の神の象徵となつて揃ひの印半纏に赤、黃、青、綠も鮮かな向ふ鉢卷き姿の店員は景氣よい掛聲で今年における商人の喜び投げの緣起を持つて市中をねりながら

往 き交ひ昭和庚午の活躍は先づ商店街から始まつた先づ眼に立つたのは黃金町二丁目の高居自轉車商店の初荷車が五十余臺堂々長蛇を作り紳士、藤正宗、白鶴等酒の強盛りがトラツクおよびサイドカー等で近郊の小賣に飾られて、爆音を立てて疾走するのも新時代の初荷の端緒だ、中には頭つ黑くなつてゐるのが通り相場の鍛冶屋や石炭屋さんが、いつになくまつ白い顏に織のはんてんに向ふ鉢卷で、繊細した車をひくのも勇ましい氣がする、かくて生活必需品は、人類の多幸を祝福するかの樣に街頭を趣向を

凝 らして往來したが一方各商店では恒例の商店も新しく『新春の流行物』を展示して趣もよく初賀を開始し飛躍の庚午年に相應しい裝飾に客足を招いたので年末以來の鬱陶さで悲觀は稍々緩和の色を見せ各商店街共大賑ひであつた

月は人を呼んで、どこの館も大入滿員で殊に兵隊さんが、モスク劇に劇場の活動見物で、大賑ひ、館主からド足番までいづれも大入の祝袋を手にして意氣こんでゐる盛況ぶりであつた。かうして二日も酒と凝酸と祝と初賀とにくれる。

春ひらく —(B)—

なやましき曲線

旗擧げして五月 崔承喜孃の紅焔

經濟だ。露出だ。ジヤズだ。狂態だ。時代の白日のむからからおゝ偉大なる觸線がもつれもつれて曝へ發展。

◇

裂一門に育まれた天才少女、後ふるさとに旗擧げしてこゝに五ケ月但し承喜孃は血に弓ひいたわけではない。三阪の高麗の馬の後嬢に嬢をめぐつて、み代をたゝへる實入佳女メて九ツ。脚線いよくめでたく、腰線隣におんふくよかなり、だ。

◇

紅唇ひらけば、たちまち あおる萬丈の氣焰『男の一座に幼稚女は必要なものですが、女の一座に男はいりません、だからわたくし共の研究所では男の方の入所はみんなおことわり申してをります』だとさ。

◇

絢爛の衣を投げ、美態を拋つた、イサベラダンカンの流れを汲んで承喜孃が身に纏ふものは、それでも――或ひは肉紅、或ひは純白の短衣一片。『舞踊は肉の美しさを見せるものですから奇麗な衣裳や飾りはかへつて邪魔物で御座いませう、石井先生のお教へをそのまゝ守る姿は矢張りこの姿で踊るのが一番樂で御座います』承喜孃の皆心のえみがこぼれるのでもる。あくまでも漠の正統につく孤孃の脚線、いまは朝鮮舞踊の飛びをとり入れた一九三〇年の姫舞踊朝鮮に余裕がないとか。

◇

直觀か、あらず舞踊にひらく昭和五歳はあのなやましき曲線の數々にこそいのちがあらう。ダンカン地下に笑輝せむ、象牙の塔は女人禁檄にさひはひあれ。

行倒れ一號

三十一日午後十時頃、竹添町一丁目六十九番地先に年齡七十歳位の乞食風の朝鮮人男が行き倒れて居るのを發見、府立醫院西大門分院に運び込み手當てを加へたが、遂に死亡した、どこの者とも判明せず死體は四日京城府に行路死亡者第一號で引渡されるはず

名刺交換會 盛況

恒例の京城府名刺交換會は一日午後零時半から長谷川町公會堂で京城府水府尹から挨拶があり萬歳三唱次ぎの如き挨拶があり盛會裡に散會した

(前略)恭しく惟みるに上皇室の隆昌天皇の御榮へ彌榮へに益々…と共に窮りなきを拜し奉りますは下八千萬赤子の只々誠惶誠恐感激に堪へない所であります殊に我朝鮮の統治は陛下風に先帝の洪範に則らせられ撫育勸化の仁政を加へさせ玉ふ所今回見れば十三道の山川草木亦陛下聖世の仁澤に潤ひまして生の姿一段と新なるを覺ゆる次第であります乃ち茲に我京城府有志は先以て改曆新年の初頭に方りまして謹みて聖壽の無疆と寶祚の萬々歳を慶祝し併せて至誠奉公の念に出發せる熱烈なる愛國心を以て擧國志を同ふし共に赴ふ所を一にして上皇室の御繁榮をお祈り申上げ取扱精勵徒々邦家の進運を扶翼し奉らんことを庶幾したいのであります、仰げばいや高き昭和の御盛運に各位と共に千萬同胞の康福を祈念し併せて京城府民各位の御健康を祝福申上ぐる次第であります

各地の新年

平壤 暖年に見ぬ暖かさに惠まれ一日午前零時過ぎから當夜は神社參拜者で…に限り平壤府當局が神社參拜者の便の爲めに休まず運轉した電車を利用して平壤神社へ參拜するもの相續き新年五朔會の流れの如き三々伍々として知友を訪ふ者も少からず爲に全市は賑々しきお正月振を見せた

南川 午前九時より小學校職員および普通學校と共に一般の拜賀式午前十時より普通學校講堂において官民合同の名刺交換會あり酒を汲んで萬歳を三唱して散會、午後は各戶訪問の客例年よりも少くさすがに賑やかな新年だつた

金泉 午前十時三十分小學校において全生徒および教職員官公吏一般拜賀式を行つた、更に職員分會でも同校において拜賀式終つて十一時三十分より市民一般、名刺交換會開催、酒井會長の挨拶あり、萬歳三唱に一同唱和、盛會裡に散會した

江原 午前十時から小學校講堂で職員全生徒および一般の拜賀式を行つた後に午前十時三十分から普通學校講堂で各學校普通學校の各學堂で全生徒職員父兄および內鮮有志多數參列同樣の式があつた

この陽春三月に 見事完成の大東京

遺憾なき近代味を出して 世界に誇る大計畫

【東京電話】去る大正十二年九月震災の劫火に一朝にして廢墟と化した東京橫濱兩市は爾來七年有余の年月と三十八億に近き巨費を投じて本年三月一先づ復興を完成し大小の街路燦然たる近代都市に出現することゝなり三月下旬には畏くも聖上陛下の御巡幸を仰ぎ次いで復興記念式を擧げることゝなつた。この復興事業は世界の都市計畫史上稀有の例とされ內外の注目を惹いてゐた東京市および橫濱兩都市と市民の協力によつて華麗完成の姿を現はすこととなつた、今事業のあとを概觀すればたのくである

一、土地區劃整理

土地區劃整理は復興事業の根幹を爲すものとし既成都市の錯雜した權利關係の整理に困難を極めつゝ東京橫濱兩市を通じて千三百萬坪の地域に之を斷行し東京では還地の設計に伴ひ二十萬三千四百棟の建物移轉を完了し全地區數六十五の內五十九まで還地處分を終へ殘餘も本年一月までには完了の見込である

一、街路

街路は環狀線、放射線其の他幹線五十二本に區數の區劃整理街路を合しその延長は約百八十里に及び幅員は四十間乃至八間殆んど全部アスフアルト又は木煉瓦等を以て舗裝し優秀な交通地路には廣場を設けた

一、橋梁

復興は隅からのモツトーの下に橋梁の新改築には最も力を用ひ震災の苦い經驗に鑑みて全部耐震耐火とし堅牢第一とすると共に近代樣式の粹輝に努め隅田川の六大橋を初め幹線街路橋梁百二十八、補助線街路橋梁百二十八、その他復興の橋梁合計五百六十餘橋に上る

一、河川運河

將來の東京築港と相俟つて水運の便を利する爲め修築、新設の河川運河數十三線延長十五キロメートルに及ぶ

一、公園

公園は市民の保健と非常時の避難所として錦絲、濱町、隅田の三大公園及五十一の小公園を增設し何れも小學校に隣接して兒童の遊戲場として意を用ゐてある

一、建物

火災延燒を防ぐ爲めに市內の重要地域には防火地區制を布き防火地區內の耐火建築に對して、補助金を交付し復興建築助成株式會社に援助を與へて耐火建築を助成した結果市內の面目は全く一新した

一、地下埋設事業

道路工事と關聯して掘返しを繰返して非難の多かつた瓦斯水道電燈その他の埋設工事も既に九十パーセントまで完成

一、其の他

市において執行する小學校百十七校の復興は鐵筋コンクリート二階建耐震の設備を誇り上下水道、病院、塵芥處分設備の如き衞生施設、職業紹介所、託兒所兒童保護相談所、授產場、公衆食堂、簡易宿泊所、浴場、質屋の如き社會施設及び中央卸賣市場、電氣の事業も着々進捗を見せてゐる、殘務の如くで內務省は三月限り復興局を廢止し殘務の事務整理のため小規模の殘務整理局を設けることになつてゐる

常設館の 晝火事

死傷者百五十に及ぶ

【グラスゴー卅一日發】グラスゴーの郊外パイスレー市の活動常設館で晝火事を起し見物中の兒童約百名燒死し百五十名負傷入院中といふ慘狀を現出した目擊者の語るところによると、當日は這回興行で子供達が謝恩的になつてゐたが火事と同時に取まかれた子供達は常設館の出口を忘れて一時に小館の出口に殺到し名狀すべからざる混亂に陷り階段の降口には子供達が六重にまで重なり踏付けられ消防も治療の方法に困つてゐる有樣である。…踊りその後續…館に押込み子供達が混亂を起したゝめである

城大軍勝つ

【奉天電話】京城大學遠征軍對教育專門學校アイス、ホツケー戰は左のスコアーで城大勝つ

城大 三（一―〇、一―〇、一―〇）〇 教專

リズミツク運動講習會

三日午前九時半から本社來青閣で開催

宮城道雄 吉田晴風 作曲發表會

一月七、八兩夜（京城公會堂にて）

曲目（宮城道雄作曲）

第一部

一、箏三重奏『君が代變奏曲』 第一箏 宮城道雄 第二箏 牧瀬數江 十七絃 牧瀬喜代子

二、童曲『葛原しげる作歌』(イ)きれいなお正月(ロ)竹の子(ハ)傘 唄及箏 牧瀬數江 同 上野惠子 舞踊

三、尺八箏二重奏『春の訪れ』 尺八 吉田晴風 箏 宮城道雄

四、童曲『葛原しげる作歌』(イ)夜の大工さん(ロ)雁の泥卅(ハ)チヨコレイト 唄 牧瀬數江 同 上野惠子 箏伴奏 宮城道雄

五、三曲合奏『花紅葉』 箏 牧瀬喜代子 三味線 宮城道雄

第二部 尺八 吉田晴風

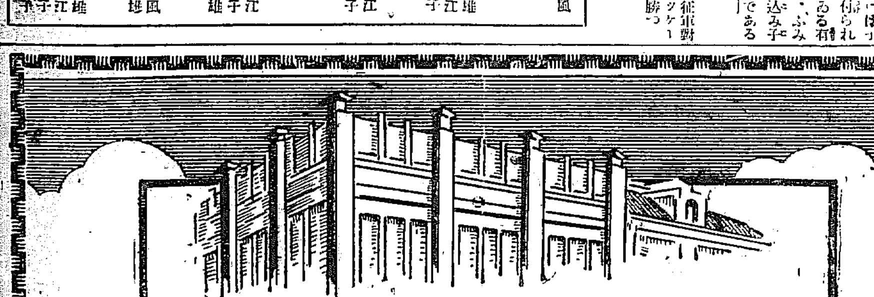
一、箏三重奏『さくら變奏曲』 第一箏 宮城道雄 第二箏 牧瀬數江 十七絃 牧瀬喜代子

二、箏二重奏『花園』 唄及箏 牧瀬數江 同 上野惠子

三、童曲 (イ)青山の池 澄宮殿下御作歌 (ロ)雨 照宮殿下御作歌 (ハ)蜂 唄 牧瀬數江 同 上野惠子 箏伴奏 宮城道雄

四、尺八獨奏 (イ)春の海(ロ)小鳥の歌 吉田晴風 宮城道雄

五、箏四重奏『舞踏曲』 第一箏 宮城道雄 第二箏 牧瀬數江 第三箏 上野惠子 十七絃 牧瀬喜代子



謹賀新年

明るい店、買よき店をモツトウとして百貨店を開設以來、萬事不行屆にも不拘日に增し御來店を賜る段誠に感銘の至りに堪へませぬ。本年は更に內容の充實を計りサービスに大改善を加へ以て平素の御同情に酬ゆる心組で御座います。何卒倍舊御引立の程偏へに御願申上げます

昭和五年元旦

株式會社 丁子屋

社長 小林源六

謹言

新春の御案内

一月三日より 營業開始いたします

相變らず御來店を賜ります樣御願申上げます

午前九時半より午後六時迄

於三階ホール 三日と四日の兩日

笑劇と奇術の會

新春の御慰みとして友だち會一派の力演を三階ホールに於て御高覽に供します 滿員の際は御待合せ願ひます

每日三回公演 午前十一時ヨリ・午後一時ヨリ・午後三時ヨリ

三日と四日の兩日

食堂半額デー

新献立を追加へ兩日共特に美味しく愉快に召上つて戴きます（何品も全部半額）

丁子屋

昭和五年度 劇界への期待

新劇のゆく手

水町瑞生

新劇の飛躍

日本の劇界は一九二九年において實に豫想以上の目ざましい飛躍をとげた。近年沈滯のやうな劣勢でわが興行界に對立した映畫の勢力劇壇は、トーキーの偉力と相まつて、新興劇界をも壓倒せんかと見えたが、今や劇界は完全に立なほり、新しい方向の把握と共に、その獨自の大道へ向ふ歩みを一日一日と切りひろげつゝある。然も映畫はなほ資本主義の牙城にとぢこめられ僅にレビウ化し、喜劇化し、或は逃避的な劇藝術に接することによつてのみ、辛うじて市民階級に媚びおほせしめぬ時代的藝術の使命を發見せんとしてゐる形狀に對し新方面の藝術に漸く成功しつゝあるわが劇界は進んで資本家と鬪ひ、或は資本家をして打算の上から追隨を餘儀なくせしめてはなばなしき進軍の陣を築きつゝある。かつて映畫の新興劇に到達な期待を抱いた新興大衆は今やあげて新劇の新しき出發を擁護し絶ゆるなき熱情と支持をその將來に約束する。

この目ざましい飛躍がわが劇界の上に現れたのは、實は一九二九年である。それも劇界が小山内薫澤田正二郎の二氏を失つてから急速に展開した思ひがけない現象であつたのである。從つて私はこゝに二氏の死をきつかけに展開したわが劇界の新分野と、その階級を中心に、今日、および明日の劇界を語らうと思ふのであるが、それに先立つて、まづ鏑木の歌舞伎劇新舊劇派はいはゆるチャンバラ劇の現狀を回顧して置く必要を感ずるのである。

歌舞伎の無力

歌舞伎劇がいかに行き詰り、如何に大衆的人氣を失ひつゝあるかといふことは、更にこゝに言を要しない處であらう。それについて思ひだすのは、梅幸、羽左、菊五郎といふ大立者が揃ひでふたをあけた昭和四年七月の歌舞伎座の、しかも『血笑記』『皿屋敷』『俄獅子』等といふ豪華版出しであつたに拘らず、實に思ひもかけぬ不入であつたといふことである。その翌月、猿之助、友右衞門、松蔦、と第二流どころの顔ぶれで、『唐人お吉』と『雁來紅』を出すと、近頃稀有の盛況にもかゝはらず、はち切れるやうな大入續き、そのために九月も同じ狂言で打ち續けたといふ盛況さであつた。私はこの一事が最も雄辯に舊來の歌舞伎を批判し、諷刺するものだと思ふ。今こゝに強ひて理屈を加へるならば、從來の歌舞伎は時代と共にあゆむ將來の前に餘りにも無力なものとなりはてゝしまつたのである。

假りに舊來の歌舞伎に對する心酔者があつて、私の新劇的舞臺に異議を唱へるとしても、今日の劇場所は新劇の人が見るがいゝ。新劇への先驅者といはれる左團次の一座や女優を多數にかゝへてゐる新派はいふまでもないこと、時代の惱みは歌舞伎中心の菊五郎一座や吉右衞門一座にもはつきり見へてゐるではないか。九月の明治座には岸田國士作『命を弄ぶ男ふたり』といふお伽噺が新派小劇のやうな演目の新作が上演されたし、新富座で新歌舞伎座が初開場すれば、松居松葉作る處の『新舊歌舞伎劇』がお家の人氣であつた。かくて傳統や家柄の殻の中に立こもつて、型ばかりに終始してゐる劇場は、日一日と現代の大衆から離き去りを食はされるばかりである。

『彌次喜多』の人氣

それなら劇場は何處へ行く——これに對する解答は今日ではさうむつかしい問題ではない。たとへば猿之助の選べ方にしても、一番目、中幕、それから新作物、大切なんどいふのが次第に少くなつて第一、第二とあつさり時代向きに片付ける傾向も見えて來たがその氣持ちはいゝのである。

腹つぷしに困つてゐる有閑階級への脱線として、またお藝の趣味としてなら、時世を忘れた大見得もよからうし、もどかしい花道の踊りも結構であらうが、大衆はもうそんなものにほれぐと見入つたり、胸をときめかせたり『何とか屋ア——』てな間の抜けた譽め聲を浴びせてゐたりするほどお目出度く出來てはゐないのである。

と、いつたからとて、私は歌舞伎人が『命を弄ぶ男ふたり』や『新宿行進曲』や、そんなものばかり出してをれば、それでいゝといふのでは勿論ない。早い話が、夏の歌舞伎座で二ヶ月ぶつ續けしたといふ猿翁劇がレコードを示した猿之助等の大入りの原因を調べて見ればわかることである。あれは只しく猿之助や友右衞門の演技によるわけでもなければ、脚本『唐人お吉』が素晴らしかつたのでもない。たゞ『雁來紅』が上演されためなのである。あのユーモラスな日本古典としての彌次喜多が、既にレヴュウ化されてゐたところに現在の小市民階級への大きな魅力があつたのである。

一般、現代の大衆は、一口に大衆といふ言葉で總稱する事は出來ない。それには二つの傾向があつて、一つは時代相に對する批判と理解をもつ進歩的なインテリゲンチャと勞働者の一群、他の一つは享樂的な明るくユーモラスなテムポの早いものを要求するいはゆる小市民階級がそれである。そして猿之助と友右衞門の『彌次喜多』があれ程の人氣を得たのは、いふまでもなく後者の階級に屬する一般大衆を相手にしての人氣だつたのである。

從つて目まぐるしい今日の世相に直面し、大衆の前に『型』と『藝』の魅力を全く喪失して歌舞伎に立ちつゝあるわが國劇および舊劇人に對して、直に希望なる轉回を要求することは無理であるが、少くとも彼等はこの小市民階級への接近によつて、その際に存する道路を發見すべきである。私はこの觀點に立つて、昭和五年における彼等の努力と、その動きを注目しやうと思ふ。

新派と劍劇の沒落

大きに、伊井、喜多村、井上、河合、花柳等によつて代表される所謂新派劇は、昨年において何をしたか。私は遺憾ながらこれらの人々について語るべき材料の發見に苦しむのである。あはたゞしい時代の動きと、大衆的趣味の轉に彼等は餘りにも無氣力であり、餘りに無意識ではなかつたか。只この間の私は八月の築地寶塚劇場における井上正夫を中心とした高田保氏作案の農民劇『父』に多少心をひかれたにすぎない。井上と河合劇、長十郎の百姓父子が、一流の熱演で、被支配階級のために、萬丈の氣を吐いてゐたあの芝居は確實向きでもあり、日本にありきたりのいはゆる百姓一揆を更に組織づけ、新しく扱つたところが頗るしく、一通り通俗的な人氣は當然といふべきであつた。この成功に鑑みても壯年のいはゆる壯士芝居から發達して來た新派劇は、こゝらで思ひきつた轉換を考へないと田舍廻りの旅役者になりはてゝ終らねばならないかも知れない。

震災後のすさみきつた都會人の頭腦に國のやうな勢ひで浸潤していつた劍劇も、昨年度あたりを頂點にめつきり勢が弱くなつてしまつた。この如何に育つて來たものは、なき澤正の新國劇と、明石潮一座、日活を出た河部五郎の一座などがその代表的なものであるが、新國劇はすでに澤田在世中から新しい方向の藝術に努め、明石もまた新興大衆の起く處を目指さうとしてゐる。河部は舊來の映畫における低級なファンの惰性的な支持を得て、唯一の純粹な劍劇を見せてゐるが、このまゝでいつたら沒落は單に時日の問題といはねばなるまい。

新國劇の前途と明石の爭議

昨日澤田を失つた新國劇は、其後舊組織な苦鬪を續けてゐるが、經營難から脱退者が續出したりして何となく影は薄い。何といつても昨年度は生前の澤田に對する同情者、心酔者の支持もあつたであらうが、これは日と共に薄れ行くものでなければならぬ。そこで彼等は、何をして來たか。澤田死後の出し物から考へて見ると、既往の澤田の新自由主義的傾向を追つてゐるやうである。そして早稲田を題材にしたもの等は相當に受けてをり、こゝに彼等の新機軸を目指す一道の光明は發見されるが、つきつめてゆけば、彼等はやがて新自由主義から社會民主々義あたりまであるいて行くのではなからうか。さうすればそこにも彼等を支持する相當の大衆層はあり得やうが、さてその先を考へると、餘り多くを望むことは出來ない。たゞ澤田の死後忽ち瓦解するかとさへ思はれた新國劇が、とにかくかうして結束し、極めて斷續的ながらあゆみ續けてゐることは賞讚すべきである。

昨夏山ノ手劇場に立てこもつて經營者側と勞働者側の一戰を試みた明石潮の一座は大出來であつた。俳優の爭議としても恐らく歷史的意義ある新記錄であらうし一座自らにとつても、よい經驗であつたに相違ない。布施辰治士等の熱心な後援もあり、ともかく彼等は勝ち抜いた。この意識が彼等を時代に目醒しめ、彼等を舞臺に生かすならば、その將來は注目に値するといつていゝだらう。

分裂後の築地・兩劇團

以上で私は小劇團を除く各劇團についての檢討を大略終つた。そこでいよいよ最初に述べた昨年度における小劇團を中心とする新劇殊に左翼劇のはなぐしい飛躍について語らねばならぬ。

この問題はまづ、小山内薫氏の死後に起つた築地小劇場の分裂に端を發した（尤も小山内氏の生前は昭和三年の暮れであつたが）分裂は既に次いで彼等は、かねて劇場經理の餘りで紛糾してゐた劇場を退く事となつた。かくして彼等のいはゆる『演劇の實驗室』を飛び出した『劇團築地小劇場』と『新築地劇團』とは、一時路頭に迷ふかとさへ見られたが、如何に生くるべきかの惱みを抱いたこの二劇團は、期せずして共に新興演劇新興大衆への投合を企てた。そこには多少われらの左翼劇を認容して止まなかつたプロレタリヤイデオロギーと組織勞働者の大群が待つてゐた。またそこにはこの大衆を指導し激勵しつゝ久しく苦鬪を續けてゐた先鋭『左翼劇場』があつて戰鬪の双手をさしのべ、小劇團『心座』も同志としてこれを迎へた。

この結果は實に驚異的な興業的價値を現出し、興業界の大資本家との契約となり、大劇場への進出となつて彼等はこゝに目覺しい飛躍を展開したのである。

然らば彼等は如何なる演技に生きたか？ 新築地劇團の第一回公演においては『生ける人形』と『飛ぶ唄』によつて早くも素晴らしい人氣を呼び、定評ある築地小劇場の脚色『北緯五十度以北』藤田保氏作の『戰爭狂想曲』（作者と俳優）等が矢つぎ早に帝劇その他で演出された。

また更生第一回の旗を本郷座に押したてた築地小劇場組の劇團築地小劇場は、江馬修氏の『阿片戰爭』とトレチャコフ原作の『吼えろ支那』を以て、完全に新興大衆を魅了したのである。その他この二劇團が發掘したゴールキー原作の『母』も共に左翼的な人氣を獲得するに充分であつた。その他分裂後の兩劇團が掘出したものに、築地組の『アプス先生』『鷹左衞門』『故郷』『淡坑夫』『森林』等があり、脱退組に『何が彼女をさうさせたか』『騒音』等があつて一演出毎に壯快な記錄を續けて來た。そして十一月末の興行には再びこの兩劇團が本郷座、帝劇によつて『西部戰線異狀なし』の競演となり、異常のセンセイションをインテリゲンチャおよび勞働大衆の間に捲き起こした

左翼的演劇の進出

かくて彼等はプロレタリヤ演劇への必然的な進路をとることにより、その存在をいよいよ確立すると同時に、新劇としては空前の經濟的成功をも收めたのであるが、いひかへればこれは彼等が正しき時代の進歩に參與し、その重大な役割を演じたものであつて、その前途は更に悠遠いものであらねばならぬ

彼等が公演した脚本演目の内昨年度のメモとして最も優秀なものをあぐるならば、まづ『吼えろ支那』がそれであらう。あの一場面毎に都國が頑張して、息詰るばかりの空氣を釀してゆく演出の効果は全く申し分がなく、支那におけるイギリスの暴虐が如實に演出されてゐた。私はこの劇を新築地の派遣を通じての、昨年度第一として推賞したい。

『吼えろ支那』と同時に忘れてはならないのは、左翼劇場の『全線』である。この劇團が、わが國唯一のプロレタリヤ劇團として長い間血みどろの戰ひを戰つて來た功績を忘れる事は出來ない。同劇團の分裂は、實は久しい間の左翼劇團の汗によつて耕かされて來た大地であつたのである。

それにつけても思ひ起こすのは恰度一年前、小山内氏の死を紙上でした久保田萬太郎氏がある紙上で『氏なき後の新劇界はどう變化するか、それは余りに早熟すぎる話へ方である』と書き『惑ふべき新劇の將來である』と結んでゐたお惱みて今昔の感にたへぬ者、果して久保田氏一人のみではあるまい。

時代は行く、そしてわれらの若き新劇は行く。しかもその前途は洋々たる光明に輝いてゐるではないか。勝利は常に進歩的なるもの上にのみあるのだ。

檢閱制度の問題

最後に私は新劇の進歩に伴つて最近特にやかましい檢閱問題（主として脚本の）について一言して置きたい。

結局おじやんになつてはしまつたが、内閣書記官長の鈴木富士彌氏あたりが者へ出した首相の文士招待でも、文士側から中心とする話題としてはこの檢閱問題を持ち出すつもりであつたらしい。築地、新築地、左翼劇場、心座の四小劇團が聯合して協議を組織したのも、主として檢閱官への對抗的戰力を糾合するためであつた。

こゝにいふまでもない事で、檢閱官の無理解については今更ではまだいゝとしても大阪方面と來ては實にお話にならない現狀のやうだ。血糊の使用は相ならぬとか、刀ならいゝがピストルは手に入り易い兇器だからいけないとか、もつとひどいのになると、脚本の上手、下手をじようず、へたと讀む檢閱官があるとかいふ話だが、これは實際その被害を受けたある劇作家の話である。かうなるとあきれるばかりで物がいへない。

かうした無理解極まる檢閱官をなくするためには、檢閱の全國的統一を第一の問題とせねばなるまい。さうすれば少くとも、東京で許可された脚本を半分以上カットして、『東京より文化の程度が低いから』なんて、平然といひ放つ馬鹿な檢閱官の御厄介にはならなくてもいゝだらう。

かうした問題については、作家や劇場關係者のみの問題ではない。われらの新劇を支持する一般大衆にとつても、警戒する處は決して少くないのである。私達が折角期待して見に行つた劇の、最も重要な場面が、それ程の必要もないのに臆病な檢閱官のため無殘に、カットされてあることは、取りもなほさず私達觀衆に取つての問題なのである。今や檢閱制度を如何に改むべきかは、直接關係者にのみまかせておくべき問題ではなくなつた。觀客の位置にある大衆自身も大いに起つて輿論の中心とならねばならないのである。

京城西大門町二丁目 大寶農林部 岡衛治 電話光化門二五〇番

京城御成町七六 坂田商會出張所 電話本局四四三番

京城永樂町二丁目 喜久屋旅館 電話本局六四五番

京城府大門通五丁目 西洋料理、土産物 長野忠左衞門 電話本局二四一九番

謹賀新年

京城府本町四丁目 洋品雜貨商 子供服專門・起勢商會 小林尚一商店 電話本局一八六六番 振替京城一二八八番

リールゴム工業所
朝鮮ゴム工業株式會社
中央商工株式會社
大陸ゴム工業株式會社
萬世ゴム工業所

京城本町一丁目 本城屋商會 頭取 本吉清一 電話本局二三四三番

門奈鶴丸

仁川宮町 岩永醫院 電話一〇二番

仁川宮町 料理仕出 三福 電話一七八番

仁川海岸町 庄野支店 電話五四番

仁川本町 株式會社 北島藥店 電話四二三四番 四八八

仁川桃山町 煉瓦製造運搬業 山野井倉次 電話一〇三三番

仁川本町 千鳥正宗支店 電話三五九番

仁川府新町 清酒醬油商 高雄支店 電話二七七番

仁川支那町 中華商務總會 電話四四九

男爵 韓昌洙

男爵 李恒九

京城府明治町二丁目 興業無盡株式會社 電話本局三三八二番

京城府古市町四三 川崎鐵網工場 京城出張所 電話長本局二五五七番

京城府竹添町二ノ九九 柴田組 電話長光化門一六八〇番

仁川本町 中華樓 電話四一五・九五七

仁川府仲町 増井運送店 増井久吉 電話二三〇

仁川府仲町 淺岡旅館 電話五三番

仁川府本町四丁目 合資會社 星光商會 電話一一

仁川新町 牧瀨產婦人科外科病院 電話四八五番

仁川府龍里 仁川信用組合 電話七一六番

仁川物產組合 電話四八

仁川府本町四丁目 硝子商 八木與一商店 電話五二四

仁川驛長 遠藤林壽

龍山練兵町公設市場 組合一同

練兵町 廉賣所組合

荒井牧場

京城穀物商組合
京城精米組合

三日・四日両日間
年頭初賣出し
—十圓以上現金にて御買上の方に福箱進呈—
昨年中は格別の御引立を蒙り有難く御禮申上ます
何卒本年も亦一層御愛顧の程偏に御願ひ申上ます
營業時間 當分の内 午前九時半より午後五時まで
京城 三越

京城府西小門町 藤澤商店京城支店 電話光化門一五〇番 一四九一番 一七八三番

京城府太平通一丁目 合資會社 多田工務所 電話光化門一二二番

京城府黄金町二丁目(電本一八三五) 水道暖房工事請負 株式會社 須賀商會 京城支店

京城府岡崎町七〇 三幸洋行 山名松太郎

合名會社 盛陽社

日本航空輸送株式會社 京城營業所 京城支所

楠見組京城出張所

堀内組京城支店

荒井組

京城府漢江通十一番地 白坂組 白坂七雄 電話龍山二〇七番

京城旅館組合

南滿洲鐵道株式會社 京城販賣所

京城府漢江通六番地 龍山工作株式會社 電話龍山四六八 六二八番

庚午新年紙上名刺交換會

佐藤剛藏

西本榮一 釜山

井上信[illegible]

望月瀧三 釜山

[illegible]三

[illegible]

大保眞敏 京城府黄金町三丁目二四一

安河內千吉 釜山酒造組合長

[illegible] 和田外科

白垣善四郎 國際運輸釜山支店

[illegible] 黄海道々評議員

福島茂平 平壤

山下秀隆 朝鮮商業銀行

松井嘉一郎 京城商業會議所

井上清 朝鮮[illegible]株式會社

河合治三郎 京城商業會議所評議員

加藤[illegible] 株式會社三越京城出張所

佐々木仁

[illegible] 三中井[illegible]株式會社京城支店

宮林泰次 京城府長谷川町

張[illegible]

淺野太三郎 京城大和町

[illegible]

長澤紀司

高尾亨

新田義民 南山町二

平壤 [illegible]清

[illegible]

中村[illegible]

秋吉正夫

伊藤[illegible]

[illegible]

[illegible]

廣安重郎

全北金[illegible]郡[illegible]村面 渡邊[illegible]

辻本嘉三郎

足立[illegible]

陳內茂吉

[illegible]

岩崎眞雄

[illegible]

山崎新

李柄學

池田佐忠 釜山築港合資會社

朝鮮興業株式會社 事務所 [illegible]弘

釜山 [illegible]

大[illegible]

釜山 [illegible]

釜山 [illegible]

齋藤吉十郎 朝鮮紡織株式會社

岡崎[illegible]

釜山 吉田[illegible]次郎

[illegible]

加藤[illegible]

[illegible]

京城日報 其二

本邦財界の推移―金解禁と我が朝鮮

朝鮮銀行總裁　加藤敬三郎

我國の財界は前年來金解禁問題を中心として數多の波瀾を描き大戰來の狀態をたどり來つたが、昨年は物價は益々低落し、商品の需要は減少一方となり、事業會社の多くは引續き整理に沒頭しつゝあるなど頗る多事多難の年であつた。然るに一方濱口內閣の成立以來金解禁を聲明して先づ財政の緊縮を計り、緊縮公私經濟の緊縮に國民を動かせられた結果

◇……**各方面** 共いちじるしく緊縮整理の聲を聞くると同時に財界一般の需要は金解禁前途の解決に對し大體に有利に展開され、貿易は輸出の增進と輸入の減退とが相俟つて累月好調を續け昨年一月以來十二月上旬迄の入超累計は五千八百萬圓餘となり、前年同期に比し一億四千四百萬圓の大減少を告げ昨年は貿易外受取勘定を以て貿易入超を略相殺し得るが如き勢を示し、外國爲替は過去數ヶ月間に五弗以上騰貴して四十九弗に回復されこれに伴ふ物價も漸次低落の歩調を現はす狀態となり、この間政府は在外正貨の充實に努めながら英米市場にクレヂットを設定して解禁準備を固めた結果いよいよ本年一月十一日を以て金解禁を斷行することとなつた

◇……**斯くて** 永年の懸案たる金解禁問題は遂に解決せられ、我國の經濟は漸くその常態に復歸することゝはなつたが、いはゆる金解禁準備としての經濟的緊縮は元より完備されて居る譯ではなく、事業界の整理の如きも多くはこの後の事に屬し、國際貸借の均衡を確立せしむるが如きも漸くこれによつてその緒につかれたるに過ぎぬ

尤も金解禁後の我が財界は突發事件なき限り憂ふべき變動はなからうと思ふが、恐らく此後相當の期間に亘り全般的不況に見舞はれるものと覺悟せねばならない。されば政府は解禁後の經濟政策として產業合理化、能率增進、國際貸借の改善、交通の刷新等を提唱して漸次具體的の施設に入らんとし、一方事業界においては金解禁期の切迫と共に引續き各方面にカルテル運動が擡頭し、なほ國產品の消費防止と輸出促進とを目的とする企業協調等が實現しつゝあるが

◇……**此の際** 國民は倍々緊張して其節約をはげみ更に產業合理化によつて國內消費の節約を企て、海外貿易の發展に資し財界の健實なる發達を期することは正に當面の急務と信ぜらる

（二）

◇……**朝鮮の** 經濟は直接間接に內地財界の影響をこうむつてゐるから今後もその大勢に伴ひ財界には整理を免れず、殊に昨年は米が不作の上に米價暴落を續け農家は疲弊し一方輸出貿易は前年より減退し一方財政緊縮による事業の繰延べの影響もあり、かたがた一般商況は頗る不振のうちに終始したが、朝鮮は特別の地位にある關係上、その基礎產業は引續き發展の歩をゆるめず、金融、交通等ますます整備しつゝある

これは昨年秋季京城に於て開催の始政二十年記念朝鮮博覽會に展示されたものにより充分に證明されてゐるが、朝鮮は今尚內地における經濟とは自ら區別があつて發達途上の商業その他に對しては引續き相當の培養を要することが出來ぬ事情にある

◇……**されば** この際內地では國際貸借改善方針に基づき財政の緊縮を行ふべきは勿論なるも朝鮮としては國力各方面の冗費を節約しなほ事業より資金を節約することが肝要であるが、然して現在の朝鮮においては開發の事業が最も重きを置かれ、近年漸く興隆なる發達をなしつゝあるは周知の事實であるが

この後倍々天然資源を開發して各種產業の伸展を促し、就中工業の振興を期することは朝鮮の富力增進上最も緊急のことと信ずる。最近朝鮮の工業生產は年額三億圓內外にも上るけれども未だ鮮內の需要を充すに足らず更に二億圓程度の輸移入を見てゐる狀態である

然して右の工業生產三億圓の內には、家內工業や手內職に類する部分の生產が相當に多く、これも朝鮮經濟の過程上自然の趨勢であるから林產その他を原料とするこれ等小工業の普及を計り、餘剩勞力を有效に使用して一般家庭の收入增加を策し、時にこれによつて多數朝鮮人の富の程度を高め、その經濟生活の向上を期することは朝鮮の現狀に鑑み最も緊要なことゝ思はれる

◇……**差向き** 手近な問題として朝鮮には工業上の原料乃至動力等が豐富であり、低廉なる勞力も到る處に得られ、斯業發達の要因は充分具備されてゐるのであるから、この後も內地方面から資本と技術とを移して新なる高度工業の勃興をも圖らねばならぬ

かくて鮮內に需要する工業品は成るべく鮮產品を以てこれを補ひ、なほ進んでは現に二千六百萬人の人口を包容し年々百萬人內外の移民を收容しつゝある滿蒙の經濟は勿論、なほシベリア方面にも廣く販路を開拓し以て朝鮮における工業貿易の進展を期し輸出を旺ならしめ、同時に本邦貿易の逆調を根本的に立直し、國際貸借の好化に資するやう努力することが目下の重要なことゝ信ずる

「三」

◇……**列國は** つとに經濟の常道に基づき復興途上着々その歩武を進めつゝあるに拘らず、我國は遂に遲くにして金解禁によりその經濟を常態に復せしめることにはなつたが、我國の經濟上最も重大の關係ある支那においては國內の紛爭今なほ治まらざるのみか印度の如き依然として動搖をつゞけ、露國も未だ中東鐵道の解決を見ず、今や我國の財界は對內の事情からしても、周圍の狀勢から見ても誠に重大なる難關に遭遇し、或はこの後數年かは相當艱苦の途をたどらねばならぬ狀態に置かれて居る

而して金解禁後に於ける難局打開の途は主として產業の合理化により生產費の低下を計り以て國際貸借關係を良化するにあるは前にも述べた所であるが、その主眼たる產業の合理化はいふは易きもこれを徹底的に遂行せんこと元より容易の業ではない

◇……**獨逸が** 世界大戰後においてその貿易は慘憺たる大逆境に陷り、他國の債權を負擔しながらその經濟の挽回に努め過去數年に三十億マルクもの大入超ありしを昨年に至り遂に出超に轉ぜしめてゐるが、これは資本家と勞働者の覺醒といふことがまづ以て行はれ、國內の復興を目標としてその產品を世界中の市場に輸出して疲弊なものにせんことを知り、勞働者は敢て賃銀を云々せず、資本家は事業經營に全能力を注ぎ擧國一致の結果こゝに到達したものといはれてゐる

如斯產業合理化を完全に行はんが爲めには單に科學的の智識を應用して所謂能率の增進を計るのみでは充分な效果は期待されず、それには必然的に勞資兩者が各異る立場を適當に調和して何れも國家的の着眼點を持つことをその根本とせねばならぬ。

畢竟するに我々日本人は從來國家の難局に臨めば朝野を擧げてこれに當りよく國威國力を維持し來つたことは歷史の證明する所であるが、金解禁後の我國はまさに經濟國難に當面するものと見らる

されば一般國民はこの際傳統的の精神を發揮すると共に時代の智能を傾倒して、これに對處し以てその目的を達成せんことを希望する次第である

鶴―滿谷國四郎畫伯筆

底を突いたものは浮上る

日本銀行總裁　土方久徵

本年は丁度明治三年生れのもので組織されてゐる明三會の當り年であるから一夕の宴を催ふす計畫であるが、この會員中には井上藏相を初め山本遞相、生田昭和銀行頭取、巖谷小波山人等各方面の名士がなかなかに多い。我輩もこの會員であり、還曆の月を迎へる一方、多年の懸案であり國家的な大問題たる金解禁問題が解決されやうとしてゐるのであるから日本銀行總裁として難局に立つ我輩にとつては本年は最も

意義深い 年である。ゆえにこの場合我輩は深く昭和四年の財界を顧みてしかして本年の財界に關して所感を述べて見たいと思ふ。昨年は田中內閣時代にあつては議會の空氣が如何にも險惡を極め、政局不安の氣分が濃厚であつたため對外爲替相場の低落著しかつた。しかも金解禁に對する態度不明であつた結果內外爲替相場は極度に悲觀されてゐたやうである。しかるに政府はこの爲替相場の現狀に鑑みて金解禁斷行の意あることを仄めかしたので爲替相場はやゝ恢復を示すに至つたけれども、困つたことにはこれがために株式市場は大恐慌を來して大暴落を演ずるに至つた。これで例の井上、鄉誠之助等のいはゆる財界の三巨頭の三土大藏大臣訪問となつて、三土藏相の聲明書が發表され、爲替相場は再び落勢に轉ずるといふ識に憂ふべき問題が起こつたのである。かくして濱口內閣におよぶと金解禁斷行を政綱にあげた關係もあり、かつはこの準備のために緊縮實行豫算の編成、消費節約の獎勵等凡ゆる努力を拂つたので、對外爲替相場は忽ち恢復し、十一月頃すでに四十九ドル臺を示すといふ活況をみたのである。しかも財界には少しも惡影響をおよぼすやうな事件の發生を見ずに濟んだので

解禁準備 は非常に好都合に運んだのである。誠に惠まれた內閣といふべきである。

現內閣の金解禁に對して、財界では期日を明示した相當期間の豫告を與へよと主張するものが多かつた。井上君も初めはその必要を認めてをらなかつたやうであるが、爲替相場がトントン拍子に順調に上り、大分樣子が變つて來たのでこの調子ならば豫告しても爲替は採算點以上には急騰しない、從つて恐い影響をもたらすやうな事はあるまいと考へるやうになり、豫告に決意した次第であるが、我輩も全くこれと同感である。いづれにしても本年解禁される事になつたのであるから、日本銀行としては特融資金により失つた通貨調節力を極力恢復するために、通貨の收縮をあらゆる方法によつて試みる。かくすれば金利は當然の結果として騰貴する事は明かである、從つて資金の海外流出の如きは或る程度まで緩和しうると信じてゐる。解禁の結果は農村方面では從來のやうに爲替相場の不安定による生產市價の騰落が少くなり市價は安定をつげる。これに伴つて經濟も安定するから農家は肥料の仕入れに好都合となり、又化學肥料等の價格も自然と低落するから米の生產費も低下する次第で、たとへ**一般物價**の低落に伴つて米價が下落してもこれを補つて十分であらうと思はれる。又地方の金融界も都會地の大銀行同樣好影響を受けるに相違ない。商工業者もそれぞれの事業なり取引を進むる上において、從來と違つて前途の見込みが付くから商賣もやり易くなる。この間も大阪の商人がやつて來て早く金解禁をしてもらはねば仕事が手に付かぬ。解禁して不景氣が來るとなればその覺悟で採算をするから安心出來る。といつてゐたが一般の人々もさうだと思ふ。解禁してしまへば財界はそれ以上惡くなる道理はない、從つて底を突いたものは必ずや浮かび上るものである。解禁後何年かの間は不景氣の續く事は英國の例を見ても分るが、同じ苦しむにしても前途に光明があるのであるから苦しみばえがするものといへる。

波瀾を極めた午歳の米價

古來の歷史に徵すると、午歳の稻作は豐作が多いが米相場には相當波瀾含みの年柄で、既に天災時變往々にして起こり、これが爲めに米價に尋常ならぬ變調を來し、暴騰或は暴落を見ることが多い。既往を顧みるに

◇……天保五年甲午　稻作は豐收を得たのであるが、前年の凶作の尻を受け新春より五月まで米價は暴騰を續けたので、二月に大阪地方は御令を發して西國及大阪地方の米を出し、これを江戸に買ひしめ且つ大阪城の圍米を開いて貧民に給與した。處が同年は豐作であつたから、十月大阪の米穀商に令を發して『今年は全國豐作にして追々入津あれ共不作に候處直段を以て他國へ賣出すべからず』と命じた位である。而して同年は江戸及び大阪に大火があつた。

◇……弘化三年丙午　同年關東地方に大風大洪水あり、米價これが爲めに騰貴した。併し新穀季に至つては、作柄は平作の爲めに米價は反落した。

◇……安政五年戊午　同年三月に越中信濃飛驒地方に大地震ありて死者數千人、加ふるに春來降雨多く六、七月の交に九州及び四國海道は暴風雨の被害ありて米價大に騰貴したので、大阪市尹令して曰く『本年江戸は米價高値に付き江戸に回送すべき事』と。而して同年は京都及び江戸に大火あり、世間同じく不穩であつて米價も常に強調を維持した。同年江戸の米價は金一兩に付玄米高五斗四升一合六勺乃至五斗一升六合六勺であつた。

◇……明治三年庚午　春來氣候順、全國を通じて豐作見込なりも前年の凶作況を受け春來米價は十圓八十錢を唱へ、九月七日大風雨ありて五六十錢にも低落したるが、外米百八十萬石の輸入あり再び二十五萬石に減少せり。偶々金納七圓臺に低落せり。の令ありて貢納が爲めに下げ足を阻止するに至つた。

◇……明治十五年壬午　昨年來の不景氣に金融逼迫し、從つて米價も下落の一方を辿り、石九四圓より七圓臺に低落した。然るに八月に至り朝鮮事變の報に接し米價は跳騰した。然し何事もなくして無事落着せると財界は益々沈靜せると、稻作は豐收を得たるとに因り再び米價は反落に向ひ遂に六圓三十錢臺の安値を見るに至つた。要するに同年は不景氣に不景氣を重ね米商會仲買人百餘名の拘引營業停止等もあつた。

◇……明治二十七年甲午　春來米價は八圓臺前後であつたが五月頃より強氣の優勢買ひに漸騰五月降霜害より九圓五十錢に暴騰し、三月立會中止となり、六月には日清戰役勃發し七月期限と共に九圓七十錢の高値あり、後豐作の影響で下押したるも端境期に至り當限は頭落八圓二十錢となり低落氣分に大納會した。

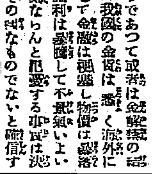
◇……明治三十九年丙午　前年の凶作況と戰爭後の入氣は益々強く十一圓七十五錢の與會より三月十六日の高値に沸騰して立會中止となり、漸く反落を辿り五月再中止あり、六月以後九月まで暴落したが、收穫減少を顯示するに至つて入氣一變しことに漸落した揚句で買氣を呼び漸騰歩調に十六圓七十錢の最高値ありて後漸次下押して小保合に納めを告げた。

◇……大正七年戊午　新年に二十三圓八十錢を發足點として大三十八圓五十九錢までといふ未曾有の大高値を出現した年で、由來二ヶ年續きの豐作と通貨の膨脹は戰時成金筋の買叩きに七月一旦反動押しを見たが、忽ち立直りとなり、政府の節節や十方も効なく、又王國しらの買出動したものあり、斯く最後まで失敗に歸したり。正米の如きも武州米五十圓五十錢を唱へらるるに至り、是上米を以て市民に補給したが、深川は正米減少し、政府は五月より十一月まで殆んど受渡を見なかつた。從つて紛擾の休會等相次ぎ米界常に不穩に推移したが、偶々寺內內閣より原內閣への政變によつて米價も自由放任主義となつたので買方策を伸ばして買煽りは無遠慮に行はれ、休戰後一旦の反落があつたが、外米の輸入捗々しからず、買方の再擧過熱は、聊く大戰景氣に伴ふ諸物價昂騰と共に米價再騰に猛烈して漸騰した。斯くして大正八、九年の最高値を出現するの因を爲したのであつた。

外國品の使用を控へよ

金解禁憂ふるに足らず

藤井寬太郎



金解禁憂ふるに足らず、國民は須らく國品の使用を獎勵すべし、これを止めて國內生產の活況を來たし不景氣を挽回して好景氣たらしむる最大良法なり。ことに昭和五年の新春を迎へて我國の經濟の大問題たる金解禁に對する國民の覺悟を說かんとす。國家百年の大計に基き政府が斷行した金解禁の一大英斷は國民として喜ぶべき事である。この金解禁問題は國際的一大宿題であつたが、この一事を遂行しただけでも歷史的一大功績であると稱して居る如く國民の上下を擧げてその利害得否を翫擧せられその結果につき非常なる憂慮と不安とを以て居るのであつて或者は金解禁の結果直に我國の金貨は悉く海外に流出して金融は梗塞し物價は暴落し、金利は騰貴して不景氣いよいよ甚だしくなるならんと杞憂する事實は決してその理なきものでないと確信するものである

勿論我國が世界戰爭に依り一時三四十億の利益ありたるに浮かれて其生活を華美ならしめ恰も成金の家族の如く奢侈を競ひた結果は連年輸入超過の連續となり折角の利益金は全滅して元の默阿彌となり跡に殘るは奢侈の習慣のみと言ふ狀態にては將來の心配決して無理ならぬものである。只此場合徒らに心痛萎縮して生產力を減少したならば其結果は益々不景氣となり到底活氣を回復し得ざるに至るであらう宜しく速かに擧國一致の對策を講じ金解禁を動機として却て正貨の流入を多からしめ逼つき年の不景氣を一掃して好景氣に向はしむべき大計を確立せねばならぬ

私はここにこの一大事業が案外容易に實行し得らるる唯一の方法あるを斷言して我八千萬同胞の即時實行を希望するものである。其方法とは果して何であるか、決して奇策でも妙案でも無い平々凡々たる方法であるが其效果の的確なるは恐らく是以上正確なものは無いと信ずる即ち**當分我國民は絕對必要品以外に斷じて外國品を用ひざる事只此一事である。**

……ふくする點にあるのであるが若しも我國民が眞に國家安危の分るゝ處を鑑ひて當分の間絕對必要品以外の外國品を一切用ひざる事となつたならばその結果はドーであるか心配した輸入超過は反對に輸出超過となり正貨は流出する所なくかへつて反對に流入する事必然である。況んや外國品を用ひざる結果は內國品の需要を增加し內國生產界の活況を呼ぶに至る事も正に疑ひのない事實である。ここにおいてはじめて心配した金解禁はかへつて福の神の入來で多年の不景氣ははじめて好景氣の第一步に導く事が出來るのである

こんな平凡な議論は今更私が絕叫するまでも無く何人も承知してゐる處で既に國產愛用獎勵の聲は先覺者の叫ぶ處であるが私は只單に國產愛用獎勵の程度では不徹底でその結果は微弱であらうと思ふ。

すべて需要のある處必ずその供給が起こる。需要の增加は生產施設の改善となり生產費の低減は價格を低下せしめその品質は優良となるであらう。こゝにおいて經濟國策のために當分外國品を使用せぬ國民の覺悟は內國生產品の改良發達となり當然の歸結としてその改良廉價の製品は海外市場に驅逐せられ輸出の增進は永久的國際貿易發展の根基となる。すでにこの道理が分つたならば一時の不自由を忍ぶ位は何でもないはずである

金解禁の對策として消費の節約も必要であるがそれも其度が過ぎれば需要の減退即ち生產界の不景氣となり自から墓穴を掘る如き結果となる彼の米國における不景氣挽回策としてフォードが採つた賃銀値上の精神の如き大に參考とせねばならぬ。

賀正

仁川山手町　上田文次郎　電話九五〇番

仁川　伊佐山伊三郎

仁川氷組合

仁川府宮町　履物問屋　村上貞市商店　電話六一二番

仁川宮町　磯永洋服店　電話二一五番

仁川府宮町　洋品雜貨　伊藤商店　電話二五三

仁川府宮町　洋酒罐詰　越智商店　電話七三八

仁川宮町　西洋料理　東洋軒　電話五一九番

仁川港町　船具漁具商　池末商店　電話八〇七番

仁川府海岸町　穀物商　今井嘉三　電話八〇九

仁川府宮町一〇　岩崎政介　電話四五五

仁川本町　綿糸布商　平野商店　電話九七二

仁川萬石町　土木建築請負業　天野秀一

仁川府本町四丁目　外米商　福島邦一商店　電話一〇一四

仁川本町　共益社支店　梅田常博

仁川府山手町二　梶谷寫眞館　電話八八一番

仁川商業會議所會頭　岡本保誠

朝鮮信託會社々長　池邊竹次

仁川本町　運送業回漕業　福島組　電話五三五番

仁川府木材商組合

仁川觀測所長　後藤一郎　電話二三三番

仁川府仲町　加來次夫　電話九四九番

仁川本町二丁目　精米貿易商　杉野榮八商店　電話二〇一・八八番

仁川府長壽里　朝鮮鹽業株式會社　電話七七八番

仁川　今村覺次郎

仁川府仲町一丁目　運送業　大和組本店　電話二八一・五三八番
上仁川　大和組支店

仁川龍岡町　仁川物產株式會社　電話六八五番

仁川穀物協會

仁川築港通　ベンネット商會

仁川府尹　松島清

仁川　力武物產株式會社　社長　力武嘉次郎

仁川郵便局長　布村政次郎

仁川府本町四丁目　綿布商　河野竹之助本店　電話二八番

仁川酒造組合

仁川山手町　府立仁川病院　電話一六・二〇二四番

仁川府內里　和洋雜貨、染料　鬼頭兼次郎商店　電話六六番

朝鮮問題懇談—（東京にて）（寫眞右より松田拓相、阪谷芳郎男、齋藤總督、水野錬太郎氏）

風景資源としての金剛山

（上）　渡邊豐日子

金剛山の風致が四海に冠絶せることはつとに世俗に認められてゐるところであつて今更贅言の必要はないが昨今內地においては國立公園問題もいよ／＼具體的に進捗の緒に着かんとするの際半島の大なる誇りである金剛山の保勝經營についてこゝに改めて大方の理解を促すのは、必ずしも徒爾であるまい。おもふに過去の地殻變動に彩された叡智な朝鮮半島に、金剛山の如き雄大な自然の神秘境が展開の相において殘つてをることは何人も不思議とするところであらう。いふまでもなく金剛山の勝景の主要な部分は半島の脊梁たる太白山脈の一部に現出してゐるいはゆる一萬二千峰の奇勝と稱せらるゝ區域であつて普通には內北に走る脊梁を境として、日本海に面する部分を外金剛と稱し、西側に面する區域を內金剛となすので大凡三十余方里にわたるのである。これを地質的に見れば、古世層片麻岩の間隙をやぶつて噴出した花崗岩が何萬年かの歲月によつて上層を風化分解し去られて地表にあらはれ、更に雨打風蝕幾萬年かの星霜をへて奇巖怪峰をつくつたもので、これが山容をつらぬいて天表にぬきんで名峽靈峰をつくり、千姿萬態を具へて天斧の妙技を表現し、溪澗の水に臨んで翠松たる森林にいろどられ中に古寺、名刹が點ぜられていたる所奇勝絶景をなしてゐるのである。又四季折々の變化ある眺望は月に雪に、さては花に紅葉を添ふるのみならず、一日の中においても朝暾に映へた眺望は、日本海の波浪が織る鏡面の様つて異となることゝまれ、夕陽となるに隨れて、幾たびか山裝が容を改め、やがて夕陽に赤く染る變化の美しさは、正に天下無類の觀を與へしむるものがあるのである。加之この雄大な風景を中心として、外金剛には溫井里に温泉の湧出するものがあり、東方には近く海金剛の海岸線を控へ、北には叢岩にして奇勝を添へその規模の雄大にして景勝地としての資格なり條件なりを完全に具備してゐる點は、眞に風景資源として啻に朝鮮においても他においても稀くその比を見ないのである。

金剛山の風景は絶大なる觀光は今までに內外數多の人士によつて紹介せられて頗しく讃嘆の辭によつてその非凡な價値が推奬せられ、或は詩に詠ぜられ、あるひは繪に寫されゐるのである、獨り外國のみ人士に限らず、時に風景や美學などの專門家によつても又天下の絶勝として認められてゐるのである。先頃我が國の權威者たる上原博士が一顧價をなしたのであるが、同氏の見るところではいはゆる國立公園の資格地と稱せらるゝものは頗る多數に上るのであるけれども、その公平に評價すれば眞に推奬すべき國立公園の有資格地は、北のアルプス一帯と北海道の大雪山系と、然して我朝鮮の金剛山とであるといふ。以て如何に我金剛山の風景が內外に冠絶し、海內屈指の名勝として誇るに足るかを知るのである。又金剛山はかく天下の絶勝たるのみならず、更に植物學上より見て又頗る大なる價値を有するのである。即ち專門家の調査によれば金剛山に産する草木は大凡七百余種であるが、この中にはアサシモケやハナブサウ等の如き朝鮮固有特産の貴重な植物が多數あつて、植物學上大いに珍重するに足るのみならず、かく多數の草木を産する金剛山はそれ自體が一個の植物學の標本、自然の植物園となつてゐるのである。元來朝鮮の山野は李朝時代に保護取締が不充分であつた爲めに頗だしく荒廢に歸して、草木繁茂の自然の原始相を保存して天然が進化の大本を發ゆるところを見るのは甚だ少いのであるが金剛山は自然の原始相を止むる點において中鮮に比類なきところである。中鮮は植物帶上より見て純朝鮮を代表する地帶であつて、北滿洲より來る草木と南日本より來る草木との接觸點に當たるのであるが、この地自然の變動なる力によつて自ら固有の變化を遂げ、朝鮮特有の植物をつくつたものであるから、中鮮において唯一の自然の原始相を保存する金剛山は朝鮮固有特産植物の寶庫であり立派な天然紀念物である譯である。ゆゑに一度金剛山を踏めば、よく中鮮即ち純朝鮮の植物帶の種類を理解することが出來るのである。

遞信事業に對する希望

遞信局長　山本犀藏

こゝに昭和五年を迎ふ。顧みて、過去の事蹟を偲び國家の前途を祈る。遞信關係においては、昨年は簡易生命保險の事務を開始した記念すべき年であり、內鮮滿連絡の定期航空路の創設を見た忘るべからざる年であつた。

◇

「遞信」業務中、社會政策的施設と認むべきものとしてはすでに郵便貯金の制度がある。これは民衆の零碎なる資金を蒐集せしめてその貯蓄心を涵養するといふ目的で設定せられたものである。簡易生命保險制度も矢張り社會政策的施設といふべきもので、その主たる對象は民衆であつて、民衆をして強制的貯蓄を行はしめ、併せて國民保共濟相互扶助の目的を達成せしめんとするものである。

昨年十月一日より開始した本制度は豫想外に利用が多く、昨年十二月十六日現在に於て契約件數九萬二千七百二十九件、保險金額一千八百十萬九千六百三十二圓であつた。なほ本制度の利用增加するに至らば、遠からず積立金の運用放資に因る各種の施設や、被保險者の保健施設その他の福祉施設の實現を見ることとなるであらうと思つて居る。

◇

「航空」路の設備はつとに要望されて來た問題であるが、昨年四月一日からの內鮮滿間の定期航空、九月十日からの內地、朝鮮、滿洲間の定期航空の開始によつてこゝにはじめて內鮮滿連絡の航空路の開拓が出來た譯である。

元來朝鮮は歐亞大陸の一部に位し、國際航空路の一部分を成すの要衝に在るのであるから、朝鮮に於ける航空路施設は相當重要性を帶びた問題であると考へて居る。而して本年早々に於ては、蔚山航空無線電信局の完成を見る筈であるから、これに相踵いでその他の航空無線電信局又は航空氣象觀測所等の設置を促進したいと思つて居る。

◇

「前叙」の二施設事項の外に、海事行政關係のものとしては昨年中に咸鏡南道麗島燈臺に霧信號を設置し、全羅南道邊椴浦島に燈臺を建設したのが主たるものである。すでに周知の通り朝鮮は三方海に臨み、その海岸線は九千三百余哩に達してゐるのであつて二百五十余處の航路標識を有するのみではなほ未だしの感があり昨年六月には『ばいかる丸』の遭難事件を惹起したるが如き例もあるので、航路標識の完備といふことについては、將來一層の考慮を拂ふつもりで居る。

◇

「なほ」電氣行政關係のものとしては、大正十一年度より昭和三年までの繼續事業として行つた發電水力調査の年限を一ヶ年延長し、これを本年三月までとなし、その調査を續行してゐるのであるがこれも近く完了する次第である

發電水力調査の結果に付ては今直に斷定することは豫想へるが朝鮮にも相當開發し得らるゝ水量はあるやうであるから、水力發電の事業が勃興し、豐富な水力の消化方法とし、電力が動力用に低廉に供給せらるゝに至るならば、工業方面において享受する利益は蓋し尠少ならざるものあるであらうと思はれる

◇

遞信事務は概ね民衆を對象として居るものであり、社會と密接な關係を持つて居るのであるから、常に社會事情の變遷を注視して、それに適應した施設をしなければならない、否時としてはこれに先んじた所の施設をしなければならないと思つてゐる本年も此の覺悟を以つて遞信業務の發展を期したいと思ふ

益進展する專賣事業

專賣局長　松本誠

歳神一轉こゝに昭和庚午の新春を迎へ、專賣事業に關し聊か所懷を述べたいと思ふ。

專賣局設置以來こゝに九年の歲月を經へ、昭和五年度においては煙草三千六百五十余萬圓、人蔘二百六十余萬圓、鹽四百三十八萬圓、阿片十八萬九千圓、紅蔘收入四千三百八十三萬圓、總計千七百七萬二千圓を豫定しうるに至り、總督府財政上極めて重要なる地歩を占むるに至つたのは、專賣局當者として頗る欣快とする所で、又その職責いよ／＼重を加ふるを覺ゆる次第である。

「煙草專賣」事業は創業以來朝鮮以來入葉を擧げ、多年懸案の專賣制度の確立となり又負擔の公平を期したる自家用煙草の耕作並に民間業者煙草の例外的制度は、地方民度の向上に伴ひ最早これを存置するの必要なきに至り、廢止せられてこゝに制度の完成を見、その第一年を迎ふることを得たのは頗る欣快とする所である。

然し制度の完成は必ずしも事業の完璧を意味せず、寧ろその實効を收むると否とは、今後に於ける制度の運用如何に在りて、殊に、民度の啓發と專賣事業の理解に俟たなければならぬ。而して制度改正の當初に於ける過渡期は、これを除く事難くして、弊を事業の將來に貽す事大なるを以て、本年は全力を擧げて專賣制度の趣旨徹底に努むると共に、監視取締を嚴にし犯則の根絶を期せなければならぬ。昨年罰則を改正し、刑罰の程度を緩和したは、眞に必須主義を以て臨まんとするにはあらざるも、刑狀に依りては輕微の犯則と雖もこれを嚴罰して一般の反省を促さむとする趣旨に外ならない。民を罰するは吾人の最も悔まねばならぬ所で、克く一般民衆の理解を求め、尙ほ犯則を敢てする者あらば、處罰訓戒殷殷その宜しきを制し、以て制度改正の趣旨に添はねばならぬ。

製造煙草の賣上 の增加は素より例外的制度廢止の期待する所であるが、一面取締を嚴にし不正葉煙草の跋扈、跳梁を抑ふると共に、製品の配給を圓滑にし、山間僻地にも尙方の民度需要に應じてその求めむとする製品が得られざるなきを期せねばならぬ、小賣人の弊風並に配置の適否を調査しつゝあるは、畢竟これに依り小賣人の素質を改善すると共にその配置及び出賣計畫を適切ならしめ以て如上の目的を達せむ為を期する次第である

葉煙草の生産は 近年多少品質低下の傾向あるが漸く原料所要量を充たすに至つたのは、思も向も喜ばしき現象である。煙草耕作の獎勵は一般農作の獎勵とは異なり、專賣局の所要原料に適する葉煙草の生産を求むるのであるが品質優良なるものを求むる品種に付ても耕作方法概して收量增加に傾き品質の向上に重を置かざるの風あるは遺憾とする所である。それ故耕作者に、原料使用價値より見たる品質に重を置く程度を了解せしめ、品種に依りては收量の增加必ずしも利益にあらず專賣局の指導方針に從ひ、その求むる原料の生產に努むることの有利なるを充分に理解せしめたいと思ふ。煙草耕作者中には生葉葉煙草を隱匿して自家消費に供し、甚しきはこれを密賣する者、今尙ほその跡を斷ざるは遺憾とする所である。近年煙草耕作の有利なることは一般に認められ、耕作熱旺盛となりたるを以て、此の好機を利し或は取締に依り、或は助犯規約の締行に依り、斷然犯罪の醜習を一掃したいと思ふ。

工場の設備に付 ては、屢々改善の實を擧げて居ると信じて居るが、尙ほ工場能率の增進に於て、將又、職工の保健衛生に於て、幾多改善を要するものありと認むるも、財政上これを許さゞるは遺憾とする所である。然れども工場管理の局にある當務者相協力し、豫算の許す範圍に於て研究工夫を凝らして歩一歩改善して行きたいと思ふ。煙草製造の各種の機械は、概ね既に舊式に屬してゐるが、本年度において更新計畫を樹て、五年度豫算には更に相當額を計上せられ、兩三年を期し更新し得ることゝなつたは、生產費の低減、製品の出來榮上消に欣快に堪へない所である。

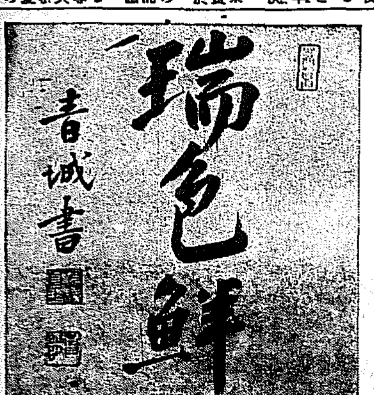
職工に付いては 工場設備の改善と相俟ちて指導訓練に依り、その能率の增進を圖りてその所得の增加を得せしむると共に、共濟組合の事業として從來の傷病、死亡の弔慰金制の外、新に年金制を設け、退職後生活の資を叫くることゝし、なほ一般の福利施設に付ても、更に適切有効を期したいと考へてゐる。

參業に付 ては人蔘耕作上研究の余地が甚だ多いのであるから、耕作組合と協力して更に一段の研究を圖り、是非とも先人未到の天地を開拓して見たいと思ふ。亦紅蔘製造場の設備や作業の方法もまた改良の工夫を凝らしたい。なほ指定耕作區域の內外を問はず、紅蔘耕作組合の取締を嚴にし、以て品質の改善と相まちて高麗紅蔘の聲價を高めたいと思ふ。

鹽業に付 ては、既設鹽田漸く熟成の域に達し、その生產額は逐年增收し、昨四年の如きは三億萬斤を突破するの好成績を擧げ、生產費をいちじるしく低下し得たるは、もとより天候に惠まれたるによる所大なりといへども、最近兩三年における成績により、益に顧慮して指導しうるの態度を得たるは朝鮮における鹽業のため向上ごとに堪へざる所である。

外鹽の管理に就て 關稅特例撤廢の結果本年三月末日限り海外輸入稅廢止せらるゝ爲め國內鹽業の發展を阻止し或はこれを衰頹に減せしむる虞ありて產業の獎勵乏しき朝鮮に於ては增產に及ぼす打擊は頗る甚大にしてこれを看し能はざるを以てこれが對策として外鹽の輸入を管理し政府の生產する天日鹽と相俟つて供給及び價格の統制をなし輸入稅廢止に因る鹽業者の打擊を緩和すると共に專賣と稱し同樣の効果を收め鹽業確立の過程に善處したいと思ふ。

「惟ふに」專賣事業は大規模の生產により生產費の低減をはかり、又國家の獨占事業として、經營その他の冗費を節して專賣利益の增進を大ならしむるは勿論需要者の嗜好に投じ、又配給を圓滑にして需要の趨勢に應じて賣上げの增進に努めねばならぬ。即ち國民の負擔を增加し、以て逐年膨脹する總督府財政の需要に應じ、朝鮮の開發文化の進展に寄與すると共に、朝鮮における產業經濟にその範を示さむことを期する次第である。



瑞色鮮——齋藤總督筆

犯罪の傾向

民事訴訟に就て

法務局長　深澤新一郎

瑞氣洋々として都鄙にみなぎる中に昭和五年の芽出度き春を迎へ、乾坤一新して國民齊しく 聖壽の無窮 皇室の御繁榮を壽ぎ奉り、昭代を謳歌するを得まするのは洵に慶賀の極みであります

「近年」朝鮮における司法事務は倍々多端となつて來ましたが、司法部職員諸君において熱心に社會の推移に留意しその實相を察かにし、公正平允、簡明に適合せる措置に出で、一般の信頼をして益々深厚ならしめつゝあることは、その慶ばしきことに多大でありまして感謝に堪へざる所であります。今後は一層この氣風を振興し、以て益々司法の威信を發揚するやうに致したいと思ふのでありますが、おもふに朝鮮における犯罪は年一年と增加し、犯罪の手段方法も次第に巧妙となり、惡化して來た觀があります

昭和三年中の犯罪數を昭和二年中のそれに比較しますると、昭和二年中の犯罪數は十四萬八千三百四十二件なりしに、昭和三年中のそれは十五萬九千五百十六件に增加して居ります

これ等犯罪中いはゆる思想犯および强盜、强姦、殺人、放火の兇犯の

「傾向」あることは、これを看過してはならない事柄だと思ふのであります

前者に就ではその因つて生ずる所尠少でないのでありまするが主に角近時その犯罪の方法手段的となり、世密の間に大規模に行はれんとする傾きを有し、不逞又は奸黠なる青年學徒にして不良思想の不穩過激なる言動に誘惑せられ、前途の希望もなく容易にこれに共鳴し、附和雷同して遂に犯罪を冒すに至るものあるを屢々見るのでありまして、統治上深憂に堪へないのであります。又後者は一概に論ずることを得ませぬが、主として財界の不景氣、生活難或は失業等と家庭その他の環境と相聯して原因するものと思はれるのでありますが、殺罪を犯す犯人の多くは拳銃その他の兇器を携帶せる爲動もすれば傷害、殺人等をも敢行するに至るものでありまして、この種犯罪の增加は實に良民をして生命身體、財產上に對し極度の不安を感ぜしめるのであります

「他の」犯罪も同樣でありまするが、なかんづく以上二種の犯罪は社會生活の治安、平和を脅かすことの殊に大なるものがありまするがゆゑに、絶對にその撲滅を期せねばならないのであります。しかしてこれ等犯罪を防遏するためこれに適應せる刑事法規を制定することは最も肝要な事でありまして、既に先年治安維持法を改正して思想の企謀に對する刑罰を嚴重にしたるも、國民に一大覺醒を與ふるの意味において適切の處置であります。又その前する所によれば強盜に對し刑罰法を採用せる特別刑法を制定し、又は刑法中强盜殺犯行爲の範圍を擴張し、行爲者の刑罰に規定を改正するの議ありとのことでありますが、洵に理由あることと思ふのであります

然しこれ等犯罪は嚴法峻刑のみに賴りて防遏し根絶することの不可能なるは勿論でありまして一面教育、宗教その他諸般の施設に俟つと共に、一般國民に於て克く自覺し、近親知友は固より郷黨互に相戒め、互に相啓導し、その萌芽を未然に剪除するに力を致されたいのであります。犯罪取締を一部の人にのみ任せ過ずとして對岸の火災視するが如き態度を採るのでは到底その根絶を期することを得ないと思ふのであります此の點に付特に一般の考慮を仰ぐ次第であります

「次に」民事訴訟事件は

民事訴訟に付從來非難せられたることは訴訟の終結の遲延する爲權利の保護を完ふすることを得ない憾目せば正義の維持を殆底せしむることを得ないと謂ふことでありました、これは事件數に比し職員數の僅少なることも一原因でありまするが、一面舊民事訴訟が訴訟進行に付當事者の自由主義を採用したる爲に在つたのさ、改正民事訴訟法は此の弊に鑑み、職權主義即ち裁判所の職權主義を加味すると共に相到保護上必要なる種々の進歩的規定を設け、審理の迅速並に裁判の適正を圖り正義維持の十全を期したのであります

朝鮮民事令は早くより職權主義を採用してをりましたが、改正民事訴訟法の方針に順應して

「改正」を施へられ、新令第一十年の記念日たる昨年十月一日より實施せられたのであります

右の如く新法令は正義の維持を徹底せしむる爲改正せられたのでありまして直接この運用の任に當る司法部職員並に辯護士諸君において改正の趣旨を諒し、所期の目的達成に努むべきは當然の責任でありますが、如何に法令が正義の維持に努力するも訴訟關係人たる國民に於て改正の趣旨に反し、その努力を容せず冷淡なる態度を持するときは、到底所期の成果を收むることを得ないのであります

從來國民は一般に他の政務に比し司法に對しては冷淡であり司法をして孤立せしめて居た嫌ひがあつたやうに思はれるのであります。如何なる政治も國民と共に非ざれば到底如何なる威力も發揮し能はず、如何なる威力を有するものであります。然しながら國民がこれを孤立せしめて援助せざるときはその運用の完璧を期することを得ないのであります

「希ば」國民一般が改正法令の精神を理解して、或は當事者として訴訟に關する場合たると、或は證人、鑑定人、その他の關係として訴訟に關する場合たるとを問はず、各その本分に從ひ、或は訴訟の準備を怠らず、或は眞實を陳述し、誠實に鑑定し、或は命に應じて證據を提出する等に依り、司法の目的たる正確の維持に援助を與へ朝野協力して訴訟の圓滿たる進捗並に裁判の適正を期せしめ法治國民たるの要諦を發揮されんことを切望する次第であります

賀正

忠清北道忠州　忠州運送店組合

御料理　赤城亭

南原學校組合　管理者　中野武一　電話二七番

天安郡廳　職員一同

公州地方法院天安出張所　朝長愼一

天安郵便局　職員一同

天安普通學校　職員一同

仁川汽船會社　仙掌支店

天安公醫　合馬久博

天安病院　田邊寬三

御料理　繁乃家　電話二八番

忠清南道　金融組合聯合會　忠清南道金融組合

藤永龜太郎　電話五番

南原面事務所

天安麴子組合

南原砂防工事出張所

全北南原　菊水旅館　電話二三番

南原郡廳　職員一同

全羅北道立南原醫院

朝鮮全羅北道南原邑內　カサ井園　電話三七番　振替京城二七七九番

忠南　瑞山郡廳　職員一同

忠南　瑞山郡守　李承九

忠州郵便局長　天野祥助

忠清北道忠州　中村孝嗣

忠清北道忠州　本幡三十郎

忠清北道忠州　水野彌吉

忠州邑長　武村立誠

忠清北道忠州　辻哲二

忠清北道忠州　田中隆次郎

忠清北道忠州　大石長作

土木管區　鹽田照彦

忠清北道忠州　鈴木醫院

忠清北道忠州　星光館

忠清北道忠州　熊谷果樹園

忠清北道忠州　牛田則明

忠清北道忠州　本店清州　木崎吳服店　忠州支店

忠清北道忠州　起雄商店

忠州面鳳凰里　平野農場

忠清北道忠州　忠州郡廳

忠清北道忠州　忠州面事務所

忠清北道忠州　忠州公立普通學校

忠清北道忠州　忠州公立小學校

忠清北道忠州　忠州電氣株式會社

忠清北道忠州　原口一二

忠清北道忠州　鹽田禎介

忠清北道忠州　山本初吉

忠清北道忠州　琵琶生產社

忠清北道忠州　日の丸ホテル

忠清北道忠州　醬油釀造　宮武商店

忠清北道忠州　朝鮮鐵道株式會社忠北線　自動車取扱所

忠北線忠州驛前　朝鮮陸運株式會社　忠州支店

忠清北道忠州　忠州無盡株式會社　取締役　大石長作　同　長山重治　社員　金子東鎭　同　金鶴松　同　井口仁之助

忠清北道忠州　京城專賣支局　忠州出張所

銘酒 漢陽鶴
醸造販賣 畠山酒造場
京城府元町二丁目
電話龍山一五四番

京城府岡崎町七〇番地
平井商店
平井九一郎
電話龍山一六七番

京城府岡崎町五三
淺川巖次
電話龍山一一七三番

京城府岡崎町九二
日鮮興業社
洋服部
電話龍山八七〇番

京城府大島町一
合資會社 福壽洋行

京城府旭町二丁目
中河原重吉
電話本局一五六七番

京城府黄金町一丁目
電氣工事設計施工 森電機商會
電話本局二二四八番
工場 電話本局一五二六番

京城府大和町一丁目
建築請負 朝妻組
朝妻玉治
電話本局二四八四番

京城府本町一丁目
合資會社 山岸天佑堂

京城府本町二丁目
日章堂時計店
電話本局八七六番

京城府漢江通十一
朝鮮有馬組
電話龍山三一七番

株式會社 伊藤商行
朝鮮計器株式會社

京城府本町二丁目九番地
東京大橋研究所附屬醫院
滿鮮支部

龍山驛作業組合

京城府岡崎町七番地
株式會社 北陸組出張所
電話龍山二一七九番

京城府漢江通
山十製絲株式會社 京城出張所

京城府岡崎町一四
朝日石鹼株式會社

朝鮮書籍印刷株式會社

龍山漢江通十一番地
吉田醫院

京城府長谷川町九七
金谷園
電話本局一五二五番

京城府內官公立中等學校
校長會

三中井吳服店

大日本人造肥料株式會社
京城出張所
京城府黄金町二丁目

サクラビール

京城質商組合

京城蕎麥商組合（いろは順）
六三壽し
東京庵
翁庵
霞月
大松
大東庵
蓮玉本店
太平町 蓮玉支店
黄金町 蓮玉支店
常之家
梅鉢
日の出庵
藪そば
山科
松園
まつば
まるきん
丸萬食堂
まるよし
京城庵
天金
東庵
更科本店
明治町 更科
さぬきや
喜多村
都庵
松月
十八家
新更科

京城金物商組合（イロハ順）
井原助太郎
岩田留楠
橋口卯作
堀田又三郎
古賀福太郎
金川清助
吉川藤四郎
仲谷右平次
釘本藤次郎
丸三商會
福田又商店
近藤安吉
有井清一
佐野彦藏
佐藤半次郎
島田忠作
柴田國市
鹽金卯一
長曾我部基
毛利辰次郎
元村榮作
住友利左衛門

京城府南大門通三ノ二八
藤木商店
電話本局一五六〇番 三六七一番

京城府本町二丁目
滿蒙商會出張店
山本貞雄
電話本局二六七三番

朝鮮皮革株式會社

京城府黄金町二丁目（日本生命ビル內）
花月食堂
京城府長谷川町
花月食堂支店

大阪海上火災保險株式會社
京城出張所

京城府黄金町二丁目
銀松亭
電話本局九五番

京城府南大門通二丁目一番地
朝鮮炭業株式會社
電話本局八九九番

京仁線梧柳洞驛
梧柳莊
電話永登浦五三番

京城府本町
平田百貨店
電話本局四四五〇番
平田旅館
電話本局四四五〇番

朝鮮土地經營株式會社

京城府古市町四三
吉岡刀劍店
電話龍山三五六四番

京城府長谷川町一二
中島（京城）支店
電話本局四九六 二〇〇九番

龍山漢江通十三
合資會社 寶榮商會
石原昊

京城府古市町五七
畑詮之助
電話本局二四六番

京城府太平通二丁目
淺見寅次郎
電話本局四三六番

彌生町遊廓組合

龍山醫師會

龍山漢江通十一番地
合資會社 間組朝鮮支店
電話龍山四四〇番

戊辰會

京城帝國大學總長 志賀潔
京城帝國大學醫學部長 高楠榮
京城帝國大學法文學部長 安倍能成

賀正

兼二浦明治町 御菓子司 田村梅月堂

兼二浦明治町 山田薬舗 電話一二六番

朝鮮兼二浦明治町 呉鎮憲商店 電話二四番 振替京城一七三三二番

兼二浦 姜範植 電話四五番

兼二浦 清酒醤油 氷製造販賣 泉屋 電話五三番

黄海道黄州驛前 山口商店 電話一〇番

兼二浦面長 石橋正光

黄州警察署長 松本利雄

黄州 吉尾果樹園 電話五番

黄州邑内 石井果樹園 園主 石井安次郎 電話三〇番

黄州 飯島果樹園 焼酎醸造 飯島幸平 電話十五番

兼二浦本町 御料理 清繁 電話二九番 鈴香、鈴奴、奴、ぽん太、鈴太郎

平壌府大和町 中村寫眞機店 電話九四二番

平壌府船橋里郵便所 佐藤武明

平壌府南山町 廣田鐵次郎

平壌府大和町 カワハシ樂浪堂 電話三四一番

平壌府港町 竹村喜久司

石田屋洋服店 平壌府旭町瑞氣通 電話三九四番

田端寶榮堂 平壌府山手町 電話四五三番

木村屋平壌支店 實原哲次郎 平壌府大和町 電話七七五番

藤川常市 平壌府柳町

直井芳五郎 平壌府山手町

平壌府大和町 十字屋洋品店 電話七三五番

平壌 林長太郎

平壌無盡株式會社 平壌府竹込町 電話六一番

西鮮造林合資會社 平壌府八千代町 電話七四五番

平壌府大和町 丸天時計店 吉見岩吉 電話二二三番

平壌 樋口重治

平壌府本町 長富一之祐商店 電話一六二四番

平壌府大和町 藤屋玩具店 電話九六〇番

社團法人 平南レース倶樂部

平壌郵便局 職員一同

平壌材木商組合

平安南道平原郡 永柔十日會

平壌警察署 署員一同

平壌專賣支局 山下眞一

孟山無名會 平安南道孟山

平壌官公立中等學校 校長一同

平壌刑務所 職員一同

朝鮮送電株式會社 石隈信乃雄 横田虎之助

平壌 久保鑛業部

平壌醫師會

大同警察署 馬場猛郎

平壌府黄金町 金丸直利

平安南道价川 价川倶樂部

平壌府公立普通學校 校長一同

平壌府大和町 脇坂文鮮堂 電話二〇四六番

平壌府南山町 藤野南山房 藤野礦維

平壌 齋藤清治

平壌旅館組合

平壌 松尾正枝

平壌券番

平壌府大同門通 伊藤佐七 電話二二〇番

平安南道 徳川警察署 署員一同

金剛サイダー カスミシトロン 白十字葡萄酒 朝鮮飲料合資會社

平壌 長濱能得 西村金彌

平壌辯護士會

平壌 お牧の茶屋 電話六一七番

平壌府南門町 一柳商店 一柳義一 一柳村五郎

平安南道 陽徳郡農會

平安南道 陽徳郡森林組合

平壌貸座敷組合

平壌府公立小學校 職員一同

平壌佛教會 照國寺 華頂寺 國泰寺 大照寺 妙心寺 東本願寺 西本願寺 山元派布教所

平安南道成川 大西捨松

平壌府船橋里 醤油醸造 待島英太郎 電話一一〇一番

平安南道 江西郡廳 江西警察署 江西公立普通學校 江西公立農業補習學校 江西法院出張所 江西公立尋常小學校 江西面事務所 江西水利組合 江西金融組合 江西郵便所 職員一同

鎮南浦 齋藤合名會社支店

平壌府幸町 水谷組 電話二一五番

平壌府黄金町 煉瓦土管 稲葉組 電話二三六番 五一九番

平安南道 順川警察署 職員一同

平壌府濱町 矢野組 電話七五八番

平安南道安州 安州無名會

株式會社 平壌魚市場

平壌慈惠醫院 職員一同

平壌呉服商組合
本田屋呉服店
吉本呉服店
丸橋呉服店
丸京呉服店
三中井呉服店

平壌府大和町 片倉殖産株式會社 平壌營業部
鎮南浦三和町 同 鎮南浦出張所
沙里院西里 同 沙里院出張所
新安州驛前 同 新安州出張所
平壌府旭町 株式會社平南自動車商會
陽徳郡新邑 陽徳温泉九龍閣

平壌府港町二五ノ二 國際運輸株式會社平壌支店長 房宗鉦五郎
平安南道价川郡价川面(价川驛前) 國際運輸株式會社价川營業所主任 管原定次郎
平安北道江界郡江界面 國際運輸株式會社江界營業所主任 福田仙介
平安南道江西郡新倉面(平元線新倉驛前) 國際運輸株式會社新倉營業所主任 田中龜一

小野田セメント製造株式會社 平壌支社

山十製絲株式會社 平壌製絲所 平壌府平川里

大日本製糖株式會社朝鮮支店 專屬荷扱店 菅原組 平壌府船橋里驛前 (電話一〇七八番)

大日本製糖株式會社 朝鮮支店 平壌府船橋里

朝鮮電氣興業株式會社 平壌府船橋里

京城日報　其三

童話

お人形箱とジャガイモ

沖野岩三郎作　中村進画

今雄さんは妹の京子さんと、一緒に學校から歸つて來ました。そして入口の所から、『たゞ今』といひましたが、中から『お歸り』とも何ともいつて下さいません。どうしたのだらうと思つて、お家の中へ入つてみますと、お父さまも、お母あさまも、どこかへ御用に出て行つたと見え、お家の中はひつそりかんとしてゐました。

京子さんは泣き出しさうになりました。今雄さんも、つまらないやうなお顏をして、おかばんを机の上に置きました。京子さんは、おかばんを肩にかけたまゝ机の前に坐つて、洋服のボタンをいぢつてゐました。

それから二十分ほどたつた後でした。今雄さんは妙な物音をきゝました。どこかでパリ〳〵と何かなんかのわれる音でした。

『何だらう？』と、云つて、音のした方へ近寄つて見ますと、それは奧の押入りの中でした。

今雄さんは、少し恐ろしいやうな氣持ちで、押入の襖を一寸ばかり開けて、中をのぞいてみますと下段の前にある、京子さんのお雛樣の箱の蓋が、めちやめちやにわれてゐます。

びつくりした今雄さんは、その上の段にある自分の五月人形の箱を見ますと、そのふたもめちやめちやにこはれてゐます。

どうした事だらうと思つて、樣子を見てゐますと、不思議ぢやありませんか、押入れの中が、ぱあーッと明るくなつて、廣い〳〵野ッ原のやうに見えます。

今雄さんは、のびあがつて向ふの方を見ますと、京子さんのおひなさまと今雄さんの五月人形とがみんなごッちやになつて、わあわあ、話してゐます。●

京子さんの内裏雛の公卿人形は、いつの間にか、あのかんむりと長袖の着物を脱ぎすてゝ背廣の洋服をきて、細いステッキをさげてゐます。公卿さんと並んで坐つてゐた、美しい飾のついたかんむりをきて、十二一重をきてふさのついた美しい檜扇をもつてゐた官女人形は、もうスカアトの短い洋服をきて、かゝとの高い靴をはいてゐます。

『みんな、こつちへ來た來た！』

眞ッ黒い長いひげの小父さんが手招きして呼びました。よく見ますと、その小父さんは、今雄さんの大すきな加藤清正です。槍をひねつて虎をにらんでゐた、あの清正が、いつの間にかよろひもかぶとも脱いでしまつて、淺葱の勞働服を着てゐます。去年の五月まで手にさげてゐた長い槍は、大きな鶴嘴に變つてゐます。

『おゝい、どこだどこだ？』といつて、こはれた箱の蓋から出て來たのは、熊につかまつてゐた、金太郎さんです。おかつぱ頭で、眞ッ赤な身體だつた金太郎さんは、もう大きな大人になつて、鼻の下にちよつぴり髭を生やしてゐます。それでも腹がけだけは、昔のまゝです。

『こゝへみんな集まるんだよ。そして髭擦ひをして仕事に出かけよう。』

清正はこはれた箱の上にのぼつていひました。すると、出て來る出て來る、どこからともなくぞろぞろと人形が出て來ます。服裝は違ひますが、みんな今雄さんの見覺えのあるお顏です。

後脚絆をつけて、法被を着た桃太郎さんの後には犬と猿と雉子がお供をしてゐます。花咲爺さんはゴム底足袋をはいて、鍬をもつてにこにこ笑ひながら、やつて來ます。ポチが嬉しさうに走つて來ます。去年まで美しい冠をかむり、金ぴかの甲を着て馬にのつてゐた太閤樣は、背に太と染抜いた法被を着て、荷馬車をひいて馬のくつわを取つてゐます。五人ばやしはラッパと笛と太鼓とクラリネットとハモニカを吹きながら、衣ッ服を着て勇ましく踊だして來ます官女たちも大きな振り袖かなんかの包をさげて出て來ます。曾我の五郎兄弟は、大きなまさ鋤斧を肩にげて來ます。天神山の菅原道眞公も、だぶだぶの勞働服を着こんでのそ〳〵とあるいて來ます。大きなおなかの布袋さんは、タオルで顏の汗をふき〳〵少しおくれて來ます。頭の馬鹿に長い福祿壽さんも烏帽子を頭のてつぺんに、いびわけのやうに吸つけてやつて來ます一寸法師から飴箱さんが長いあごひげを風になびかせながらやつて來ます。

『おうい、もう、これでみんな揃つたのか。揃つたら出かけるぞ』

清正の聲が聞えたと思ふと、すう―ッと押入の中が暗くなりました。

あんまり不思議なので、今雄さんは京子さんを呼んで來て、押入の中をのぞきますと、さつき暗かつた押入れが、また明るくなつてゐます。

『おやおや、お兄さま、あすこに私の人形さんが……』

京子さんは、さゝやきました。見ると、女の人形さんは洋服を着たり、看護服を着たりして、みんな一生懸命にミシンを使つてゐますよく〳〵見ると、それは十二一重だの直垂だの、いろんな着物をみんな解して、法被だの股引だのに仕立直しをしてゐるのです。

とつてんかん、とつてんかん、と遠くの方から鉋の音が聞えて來ます。見ますと、五郎正宗が片肌ぬぎになつて、鎚を揮つてゐるのです。弟子の金太郎さんが、鉋だの刀だの甲だのをもつて來て、それをたゝきつぶして火の中に投げ込みます。そして、それが見る見る、鋸や鶴嘴になります。

『御らんなさい、お兄さま！』と京子さんは、今雄さんの肩をゆすぶりました。向ふの方から飴箱さんが、大きな大砲をひつぱつてくるのです。五郎正宗は鍛冶の傍に行いて、金太郎さんに、早く大砲をひつぱつて來いと指圖をしましたと、思ふと、すう―ッと暗くなつてしまひました。

『まつてゐろ、まつてゐろ、すぐ明るくなるから。』

今雄さんは、京子さんの袖をひきながらいひました。その言葉の終らないうちに、また押入れの中がぱあーッと明るくなつて、果しも知れない廣い〳〵海が見えます今雄さんの大事にしてゐた軍艦が浮かんでゐます。鑑木の軍艦も浮かんでゐます。見覺えのある船の水兵さんが、しきりに荷物を積んでゐます。

『お兄さま、あの水兵さんは、何を積んでゐるの、火藥でせうか、砲彈丸でせうか。』

京子さんはさゝやきました。けれども今雄さんは默つてみてゐました

『おうい、ジャガイモは、もうそれで千五百俵積んだらう？』

さういつたのは、清正の聲でした。

『まあ、軍艦へジャガイモを積むの？』

京子さんは不思議さうに申しました。けれども今雄さんは、やつぱり默つてゐます。鑑木細工の軍艦が近寄つて來ました。軍艦の上かな布袋さんが大きなお腹をなでながら。

『駄目だよう、鎧なんか、イギリスだつて、アメリカだつて買ひはしないよ。こんな物を外國へ賣つて金儲けをしようといふのは間違ひだよ。みんなが眞面目になつて、働けばいゝんだよ。もう世界中、どこの國へいつたつて、こんな軍艦なんか、一艘だつてありやあしないよ。みんな商船になつて、貿易向きのものばかり賣買してゐるよ。おれはこんな軍艦に乘つて行つて、みんなに笑はれちやつたよ。』と説明するやうに申しました。

『軍艦はなくなつても陸軍はあるんだらうな。』

清正は右の手を額の所にかざしながら聞ひました。

『ありやあしないよ。軍縮だ軍縮だ。どこの國へいつても巡査さんだけだ。兵隊さんなんか一人だつてゐやしないよ。』

『だつて戰爭が起こつたら、どうするんだらう』

『國民がみんな出て行くのさ。』

『さうかなあ、まあまあ、こんなに世界中が、みんな氣樂に暮せるやうになつたんだから、戰爭なんか起こりはしないからなあ。』

『さうださうだ、もう世界中に馬鹿な戰爭なんかして、人間同志殺しあふやうなことはしないさ』

布袋さんが、はし子を降りて來た時、すうつと押入れの中が暗くなりました。

『お兄樣、お兄樣、お兄樣ッてばよう。』

京子さんの聲に、今雄さんは、びつくりして眼をあけました。今までのことは、みんな夢だつたのです

『さうかなあ、あの布袋さんのいつたことは本當か知ら？』

今雄さんは、やつぱり、そんな事をいつて、たつた今見た夢のことを考へてゐました

間もなく、お父さまと、お母あさまが、外から歸つて來ました。そこで今雄さんは今の夢のお話をしますと、お父さまと、お母あさまは顏を見あつて、くすく笑つてゐました。

お夕飯のあとで、今雄さんは京子さんに、夢のお話を詳しくいたしました。お話をきいた京子さんは、急に心配になつて、押入を開けてみますと、大事の大事のお人形の箱がありませんでした。今雄さんも走つて行つて押入の中を見ましたが、今雄さんの人形箱もありませんでした。

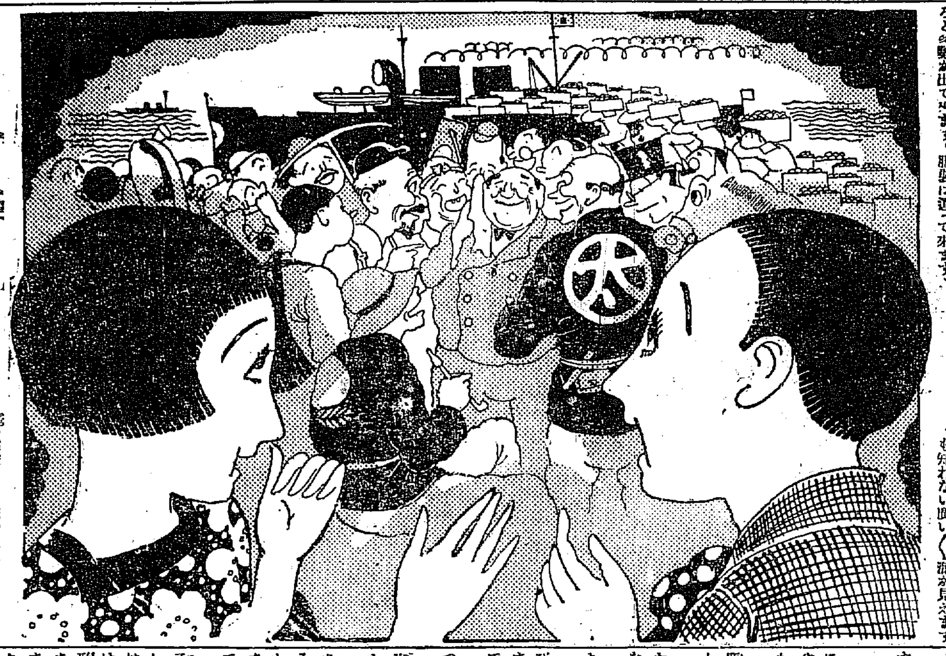
今雄さんと京子さんは、お母あさんの所へ走つて行つて、お人形箱の事をきいてみますと、お母あさんは、にこにこ笑ひながら、

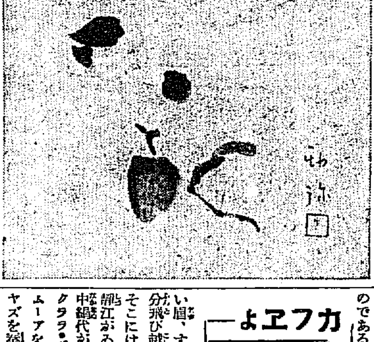
『お父さまの所へ行つておきゝ』

と申しました。で、二人はお父樣の所へ行つて、たづねてみますとお父さまは眞面目な顏で、

『軍艦だから、あんなもの、みんな賣つちまつたよ。お父さまの持つてゐた着物だの古道具だのお母あさまの髮飾りだの丸帶だの紋附だの、そんなもの、みんな賣つちまつたんだ。その代りネ、廣い〳〵畑を買つたよ、明日はみんなつれ立つて、その畑を見に行かう。その畑では、ジャガイモが毎年千五百俵取れるんだよ。』と申しました。

今雄さんも京子さんも、お人形がいゝか、ジャガイモがいゝか、それは大きな問題だといつて、今に考へてゐるさうです。





椿――守田勘彌丈筆

冬日詠

齋藤茂吉

風ふきてゆふさりぬれば冬靄南のかたにうごきつゝ見ゆ

富人と貧しき人のたゝかひの理論にも吾はいつしか馴れつ

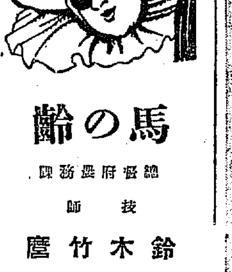
冬の日の光あたれるところにてかゞまり居るは心樂しも

にほへりし菊も枯れつゝ朝々の霜のいたきを立ちて見に來

共産主義者一味の行動をこまごまと記しゝ新聞買ひて來し

馬の齢

總督府農務課　技師　鈴木竹麿



今年は午の年で大變御芽出たい年である。なぜかといへば馬は勝の動物で勇ましい。つまり馬は勝氣な動物で『馬は百獸の勝たり』といふこともある位である。これを以て按ずると今年は國家が、益々隆盛して來るといふ瑞祥ではないかと思ふ。

私は午の年であるから、馬の年齡といふことについてお話して見やう。

よく私は馬は何歳まで生きるかといふ質問を受けるが、これは非常に六ケしい。人間は極めて歴史い動物で、馬の生殺與奪これを利用し盡くして彼が神樣から授かつた天稟を全ふせしめずして屠場へ送つてしまふ、そしてまだあきたらずして骸骨にも皮も肉もすべて人間のために利用するのであるから、馬の年齡を統計的に現すと誠に八歳から九歳十歳に滿たない。

しかし、これは馬にとつては不自然な運命で、不自然の生活期間である。即ち人間の經濟關係から割出された年齡だから、もし馬に天然の壽命を愛けるならば果して何歳まで生きるかといふことは全く別問題で、しかも仲々困難な問題である。

そこで、この問題を調査する事は、どうしても神社、佛閣にゐるところの『神馬』或は昔の大將軍に仕へた特別の名馬といふやうなもの、或はまた特に優れてゐる種馬など、特別に保護された馬についての記録を研究することが唯一の方法で、これ以外には調査の方法が見當らぬ。

西洋の歴史を見ると匯山大帝の乘馬が七十二歳まで生存してゐたといふ話があるが、これも歴史が古いから怪しいものである。

四、五年前アメリカで四十二歳まで生きてゐたといふのがやゝ正確な記録である。私の經驗見たところでは、東北地方の上北郡深牧場にゐた『略號』といふ馬であるこの馬は同牧場の創立明治維新の勤律の志士廣澤安任氏がつとに馬産事業に眼を開いてアメリカトロッターを輸入したのが、此馬のお父さんであつたがこの『略號』といふ馬は非常に超凡力が強くて東北地方の野とも稱すべきこの偉大な馬の基礎を造つたものである種馬が卅二歳まで生きた私はそれの性格を保存して大切の記錄被證第に保存してゐる。この馬は卅二歳のとき人間ならば背中が曲るところだ、馬のことゝて背中はお下る。歯が缺ける。軟い食物のほか食はせることは出來なかつた。しかしこんな老馬にもかゝはらず一年一二四の馬に種をつけるだけの元氣はもつてゐた。これが私の見た一番高齡の馬である。

然らば、馬といふものか、果して何年位生きられるものかといふことを考へて見ると、まづ馬の發育完成といふことから考へて見なければならぬ。馬が體の發育が完成されたといふことは歯で見る。馬の歯には乳歯と永歯との二つがある。乳歯は大きくなるに從つて脱換するが、永歯は永久に殘るものだ。乳歯が、段々年を取るに從つて一つ一つ永歯に代り、代り終つたときが即ち發育を完成したときである。そのときは生れてから滿五ケ年目である。いひ換へれば馬といふものは滿五ケ年經つて發育完成、人間でいふと丁度徴兵適齡に相當する。だから軍馬でも新馬を入れるのが、五歳である。人間は二十一歳で徴兵適齡で入營し馬は五歳が入營するのである。

そこで他の動物の生存期間からこれを推測してみると、馬の生存期間は、發育完成に要した年齡の四倍から五倍になつてゐるから、まづ馬の年齡を廿歳から廿五歳までの間。これ位が馬の生存期間と想像してよろしい。かくの如く、馬の年齡といふものは歯の脱換、歯の形、歯の面に現れる變化によつて年齡を鑑定するのである。だから昔から新年の挨拶に『目出度く馬齡を加へ申候』といふのも、決して架空のことではないのである（談）

カフヱーよ　何處へ往く

眞つ赤な唇に長い睫毛、パッチリと押開いたやうなひとみ、細長い眉、すべてが在來の日本女を大分飛び越したメークアップである。そこには入江たか子がゐる、岡田嘉子がゐる、鈴木傳明がゐる。田中絹代がゐる。もし注意すればクララ・ボウを見出し、コーリン・ムーアを見出すことが出來る、ジヤズを奏づるビクターの赤盤がひつきりなしにクルクル廻る。リキュールのグラスに夜は次第にふけて行く。まことにカフヱーこそは若人のオアシスである。忙しい、そして忙しいサラリーメンの憩處である。

昭和四年東京、大阪をはじめ官の手は全國的にこのカフヱーを若人の手から奪はんとした。新聞はこれをカフヱーの彈壓といつた。哀れなるカフヱーよ、彼女は嚴しい彈壓の笞の下にその姿をひそめなかつた。衰はさうでなかつた。依然として赤い灯、青い灯を點じて行く人を吸込んでゐる。

さはいへ、一度當局から彈壓の洗禮を受けたキャフヱーよ！汝はどこへ行くか？われ〳〵は暫くその將來を考へて見たい。

カフヱーが日本に輸入されてからすでに幾昔かをへてゐる。――明治何年かに松山省三氏がはじめてカフヱー・プランタンを開いた當時の事はよく知られてゐるから此處に述べないが、そのいちじるしい發達は實に一昨年あたりからである。そして昨年から今年にかけて殆ど發展の最高潮に達しカフヱーの黄金時代を現出した今試みに警視廳の調査による東京府だけのカフヱーの増加數を見ても

▲昭和元年十二月末日現在西洋料理五、九三戸、女給九、二八七名

▲昭和四年八月末日現在カフヱー六、一八七戸、女給一三、八四九名

▲同バー一、三四六戸、女給一七一〇名

の如く、四年にはカフヱー、バーとして分類されたことである。

明治何年かに松山藝術家によつて創められたプランタンがわが國カフヱーの鼻祖といふなら、大正何年か昭和何年かに、いづれの地方にかはじめてバーの看板を掲げたならば、それは全くカフヱーと異るバーの始祖でなければならぬ。實態において、バーとカフヱーとはわれ〳〵に全く異つた傾向を示せてくれてゐる。いはゆるジャズ氣分はバーのもたらした産物であるカフヱーのお客に我々は屢々『藝者遊びを簡單にする』といふ氣持てゐるのを見出だす。彼等はボックスの中で女給の酌に滿足しながら、藝者に行く氣を約束する。彼女はまたお客の靡をたゝいて藝者買つて貰ふことを約束する。

賀正

鎭南浦府　石川榮漁組　梅香堂製菓部

鎭南浦府　生牛移出株式會社

鎭南浦果物同業組合　代表者　中田紋三郎

鎭南浦　合資會社　眞溫自動車商會

鎭南浦細入消費組合　象山郁次郎

鎭南浦　松林誠一郎

元山府　杉野多市

元山府海岸通　イゲタ商會　岩中半六　電話八三〇番

元山府仲町二丁目　西洋料理　東洋軒　電話一〇六番

鎭南浦　加藤精米所

鎭南浦水産株式會社

鎭南浦　新井新藏

鎭南浦汽船株式會社

鎭南浦　梅村精米所

鎭南浦　結城常次郎

鎭南浦商盛會

鎭南浦　鈴木種一

元山府城洞　植田伊之助

元山府石隅洞　大村鎌次郎

文川公立普通學校　職員一同

咸南　高原警察署　署員一同

咸南高原郡廳　職員一同

咸南安邊郡邑内　安邊水利組合　組合長　李鍾林　理事　浦木貫

咸南安邊郡邑内　安鶴水利組合　職員一同

江原道通川郡廳　柏木唯一

江原道通川郡邑内　通川醫院　朴周遠

江原道高城郡　大學演習林内　愛林會

江原道　長箭郵便所長　外金剛郵便所長　高城郵便所長

江原道通川郡庫底　郵便所指定旅館　叢石館　瀬木三次　電話二〇番　振替京城六二五八番

元山府春日町　醤油釀造業　酒類販賣　廣瀬商店　電話三〇九番

元山府　高井春五郎　電話四二九番

元山府本町　元山無盡株式會社

咸南文川　文川郡廳　職員一同

咸南文川　文川警察署　署員一同

咸南永興　永興公立農蠶實習學校　永興公立尋常高等小學校　永興公立普通學校

咸南　永興警察署　署員一同

咸南永興郡廳　職員一同

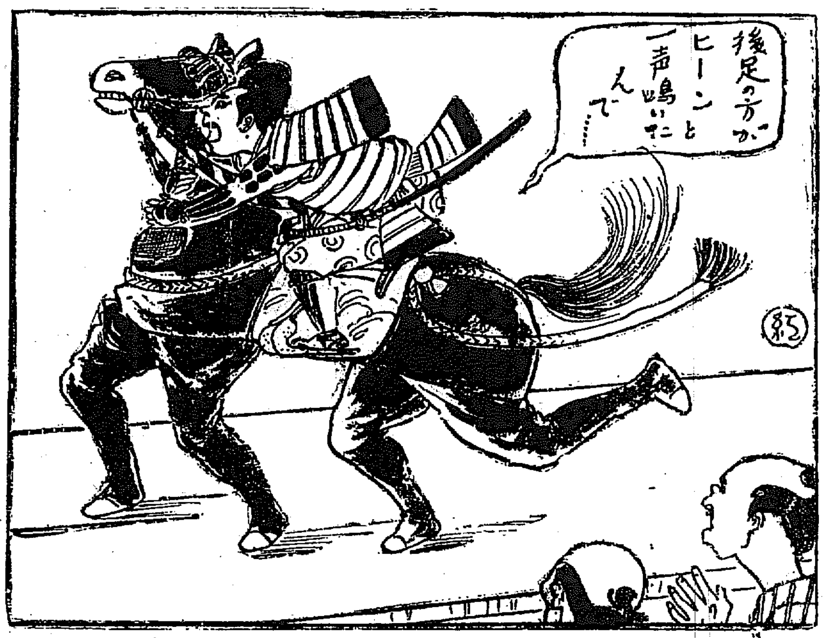
元山旅館組合（イロハ順）
花屋旅館　巴館　大東館　舛元旅館　丸金旅館　九屋旅館　愛媛館　赤田屋旅館　九州館　喜久屋旅館　三河屋旅館

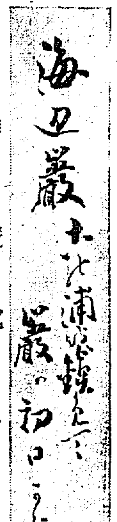
落語 武助馬

三遊亭圓生

野口紅涯畫

午年に因ました御芝居のお噺を一席申上げます。悪口に御婦人のお好きなものは先づ第一にお芝居、浄瑠璃、芋蛸だと申しますが南瓜や蜜柑は冬から蜜柑の時節でもさのみ問題にはなりませんが、お芝居と來ると中々費用がかゝります。それも唯お芝居を見ておいでなさる中は宜いが、段々凝つて來て、役者の著聞を言ふやうになりますと、事が面倒になります。それ故見物の方でも散財をして成るたけ贔屓や娘さん達を芝居へやらないやうな事になつて參ります。併しそれは或る一部のお話で、近來は御婦人より殿方の方がお芝居熱が盛くなつて參りました。贔屓通と稱する方々が、役者の評をして居るばかりではなく、御自分でお舞臺へお出でになります、殊に乙な悪口をいふだけあつて何れも巧くおやんなさる。それから思ふと昔の素人芝居などゝいふものは下手だつたに違ひありません。然し素人の余り上手なのは罪が深くつて、叶つてお望みにならないと申します。我々共の方でも折々芝居をやりますが、巧くやつたのでは御客様の御機嫌に叶ひません。仕損ないでもすればドッと受ける。つまり落語家は笑はせるものと御客様の方でも思召し、此方様の方でも御客様の御笑ひ話を聞かなければ受けたやうな心持ちがしないといふのは何所でも可笑しく出來上つてをります。昔は芝居は無論の目出度間としてございました。朝樣に悪い事をしたものが閉罪になると亡びるといふ勧善懲悪の教訓になつてをります。されば面白いと思つて見ればこんな結構なものはございませんが、見やうによつては随分馬鹿々々しいこれが無理な註文で、幽霊や鼬鼠や油虫ぢやアあるまいし、人間一人消えて失くなれやう道理はありません泥『俺が物したその物を、汝等に渡してなるものか、そこおつ默いて退して貰へ』奴『何の已れが』泥『おんでもねえこと』一寸摑まへやうとすると鼠旋す、二つ三つ繰返て立廻りがあつて兩方後へトントントンソトンとトつて、キャッと見得を切ります。師の説めといふのだからどこか顯宗のお寺に違ひない夜明けな鐘打、眞夜中に鐘と太鼓を叩きはじめる。事によつたら和尚が寝惚けたのかも知れません。その鳴物を合圖に夜廻りの奴と泥棒の立廻りが始まつて、體のよい時分に泥棒が繩圖を奴の腕ッ腹へ一つ向けると、奴はツーンといつて目をまはして終ひます。その泥棒の圖と腕ッ腹とは二尺も離れて居るから當たる譯がない。大抵此奴等に飛び切り何かあるに違ひありません泥『口程でもねえ腕え奴だ』贔いに、腕くないにも、繩圖を見たばかりで引つ繰返るのだからこの位脆い奴はありません。泥棒は悠々といつてしまふ。その奴が正気へ入つた時分に、奴が息を吹返して奴『飛んな富身に氣を失ひ、大切の曲者取逃したか、遠くはゆくめえ、誰にこの道……』と巫山戲もやアいけない、この道にもあの道にも泥酔つしかありやアしません。外の道へ行かうものならお客の中へ入つてしまふ。アタをいつたら際限がございません。しかしこの役者の修行といふものは中々容易一朝の苦心ではございません。今から三、四十年前のお話でございます」武『ヘエどうも御無沙汰を致しました、御機嫌よろしう』主人『オー武助か、久しく見えなかつたな、どうした』武『ヘエ暫く遠方へいつておりましてな、一寸手紙を差上げたいと思ひながら、ツイ御無沙汰の通り、自分で貰けないもんでございますから、御無沙汰をして相濟みません』主『ナニ手紙なんぞ遣されえでも、便りのねえのは無事なものと思つて居るからそれは宜いが、あれから何處へ行つて何をして居たんだ』武『ヘエ、此方を御暇を頂いてから種々不仕合せが續いて、これぢやアどうも仕様がねえから、何か一つ變つたことをやつて見たいと思ひまして、何でも世の中で人に可愛がられるのは役人だ、役人の中でも役者てえ奴が一番にやいやいされるから一つ役者になつて、天下に名を揚げやうと斯う思ひまし





海邊巖――この浦を觀めて巖の初日かな……　武田鶯塘

くな』主『フウーム、然うとも知へたなそれからどうした』武『然行かするには上方が宜いと聞きましたから、彼地へ參りました』主『ウム、誰の弟子になつた』武『珠寛の弟子になりました』武『珠寛の弟子で何となつた』武『みかん、といふ名を貰ひました』主『みかんはおかしいな、しかし名前は何でも縁つてゐる方が人が覺え易いといふから、みかんでも、きんかんでも構はねえが、どうだい好い役をするやうになつたか』武『ヘエ、初めて舞臺を踏みましたのがお臨時の五段目で』主『ハアそれはよかつたな、何をやつた』武『猪をやりました』主『猪、余り好い役ぢやアねえな。それつきりか』武『それから菅原の狂言に出ました』主『ウム、その時は』武『筑紫の配所の牛になりました』主『オヤオヤ、猪のあとが牛か』武『どうも余り口をきく役が當りません』主『口をきかねえといふと大名でもしたか』武『それは多く兄弟子がやりまして、私は其に出たり、高慢をやつたりする役はかりで』主『氣がきかねえな』武『それでも段々出世をして、少し口をきくやうになりました、此節はないから次ぎへ讃れ、ハヽアー』主『ハヽアだけか』武『それでもマア何うやら斯うやら役者になつて、今度久しぶりで此方へ歸つて參りましたから、御無沙汰の御詫ながら伺ひました』主『さうか、何しい家に居たものが役者になつたんだから、マア贔屓にしてやらう』武『ヘエ、どうか御願ひ申します、就ては今度此方へ參りましてから、親方を取持て芝居の弟子になりました』主『ウーム、芝居の弟子になつて矢張りみかんか』武『イエ、一貫五百ぐらひの所で』主『一貫五百を貰つたな』武『でも弟子は皆の半分に減らずといひますから』主『半端なことをいふな』武『役はまだ名が附きませんから、元の名前で中村武助といつて居ります』主『ウム中村武助か、それで今度は何座へ出るんだ』武『ヘエ、新富座へ出ます』主『そいつア剛毅だ』武『どうぞ一つ御見物を願ひたいもので』主『是非皆んなで見物しやう、狂言は何だい』武『一の谷嫩軍記』主『陣屋か』武『イエ組打ちのところで』主『組打ちてえと平山武者のたんといらねえ所だが、熊谷や敦盛や玉織姫なんぞになれつこはなし、平山の武者所か』武『どう致しまして』主『ちやア軍兵か』武『イエ』主『何だ』武『馬でございます』主『オヤオヤ、冗談ぢやアねえ、猪になつて、牛になつて、馬になつて、千代秋で巌をすりやア世話アねえや』武『けれども旦那、よく馬の脚てえことをいひますが、あれが中々難かしいものでございますよ、人間が二人で一疋の馬になるんですから、前と後の呼吸が合はなかつた日にやアとてもあるけません』主『夫はマアさうだらうが、然しお前よく呼吸が合ふかい』武『それは對手次第でございます、けれども私は後ろで前足の方がむづかしうございますが、こりやあ熊右衛門さんてえのがやりやすので』主『ウーム、馬の後足の見物てえのも余りはやらねえが、マア仕方がねえ、乃公の家に居た者が、役者になつて、馬の足をするんだから見物してくれとも褒めねえが、乃公が散財してみんなに行くだけいつて貰はう』武『それはどうも有難う存じます』主『何日がよからう』武『何日でも貴所の方の御都合で』主『それぢやア前に知らせるが土間の方がかへつて見好いだらう、何間ぐらゐと極まつたら、さういつてやるから、お前から茶屋の方へ附込みねえ』武『ヘエどうも有難う存じます、これで私も鼻が高うございます。芝居道の方まで馬の脚で見物を呼ぶなんて役者は外にありますまい』主『御褒美をきかすな、此方も馬の脚で見物をするのは初めてだ。何しろ喰つかりやんれねえ』武『ヘエ、どうか私が舞臺へ出ましたらお賞めなすつて下さいまし』主『賞めてやるが、賞め言葉に困るな、ただ馬の脚と言つたつて前だか後だか分らねえ、馬の脚武助といふのも變だな』武『ソコの所は何とか揚げ声を御願ひ申します、師匠だつて熊谷になつて乗つてる馬が賞められりやア嬉しうございませう、だから弟子のよいのは取りたいもので……』主『悪山戯ちやアいかねえ』武『デハどうぞ御願ひ申します』と諸々大喜び御馳走になつて歸りました二三日経つと愈々見物の日がきまる何でも馬の出を見るのだから、花道寄りの方を正に五六間打こ抜いて取ることになりました。主人も好い役者の見物なら贔屓にでも都めるが、然うはいかないから、自分で散財をして奉公人や出入りの者を集めて、早くから茶屋へ乗込み、楽屋へも充分行渡りを附けましたから、外の役者も喜び○『武助さんどうも御馳走さま』武『ヘエヘエ、どうも今日な有難う存じます』○『ナニ今日はお前が主役をいふんちやアない、お前の見物があるお蔭で御馳走になれるから此方で禮をいふんだ』武『左様でございますか、どうも恐れ入りました有難いことで』○『頂戴に御品貰は有難いもんだねえ、お前まだ二幕間があるぜ、今ッから支度をしなくつても宜い』武『デモ成たけ巧く歩かうと思つて稽古をして居くんで』○『毎日やつてるぢやアないか』武『それでも今日は又格別の日で……、御見物に賞められて、親方に乗り心地が宜いと賞められりやア馬の脚の名譽でございます』○『變な所へ名譽が附くんだねえ……』その内にいよいよ自分の出る時が近付いて來た所が、相手の熊右衛門の姿が見えませんサア武助の心配一通りでない。武『熊右衛門は何うしたらうな。モシ熊右衛門さんは何所へ行つたか知りませんか』と諸方さがしてゐると、△『武助さん、熊右衛門さんは あそこにお酒を飲んで寝てゐるよ』武『エ、寝てゐるつてぜうだんぢやねえ……、オイオイ熊右衛門さんどうしたんだ』熊『アハヽヽ、イヤ武助間のよい時にやアよいもので、さつき一寸茶屋のお客様の所へ顔をだしたら、まだいゝだらう一口やりなてんで、御酒をいたゞいて、飛司だ、有だといろいろ御馳走になつて樂屋へ歸つて來るとお前の見物だつてんで、又うなぎ飯が來てゐるんだらう、何しろ馬もあしの見物てえものは滅多にある譯のものぢやアねえ、俺だつて馬のあしの端くれだ、ともだちの事だから共に喜ばなけりやアならねえ、後にしやうと思つたんだが、蓋を取つて見るとプンとよいにほひがしたもんだからツイ箸を取つて一つ平らげてしまつて。一杯やつてよい心持ちになつた處へ詰込んだから、すつかり腹がくちくなつちまつた』武『腹が滿くなつたつて、もう幕が開きますよ、早くしねえと親方をしくじると大變だから……』熊『マアさう騒ぐな、大丈夫だよ』武『大丈夫だつて今日は大切な日なんだから確かりしておくんなさい』熊『ウムよしよし、後へついて來な、いゝか、馬を持上げてくれ、視るから……、ソレいゝか、入つたかい……、アヽ好い心持ちだな、腹の始つた所で一は縮ねると下戸い、具合になる』武『そつでげすかな、何してもおぢさんは前に組の者が張つてあるから見えますが、私の方はまるつきり見えないんですから……、オヤ、おぢさんオナラをしましたね』熊『イヤ先刻御馳走になつて腹が張つたものだから……』武『ア、臭い、串戯ぢやアない、息が詰つてるだだから堪まらない』熊『シーツ、出になるから騒いちやいかねえ』武『騒いちアいかねえたつてこりやア堪いた……』武助はクンクンいつてゐる。其の中に幕が開く、熊谷が馬に跨がり、愈々揚幕から出ると見物は待ち構へて居りましたから、成駒屋ア成駒屋アといふ聲で場内割れ返るやうだ。武助の主人は馬の脚を賞めて貰ひたいが、上の熊谷に褒める聲で、脚なんぞ誰も氣が附かない。仕方がないから連れて來た奉公人や出入の者の尻を突ついて主『オイ賞めねえか、馬の脚を賞めるのだ、武助を賞めるんだよ、賞めなけりやア誰が馬へ踏つて御前を取るぜ』○『ヨー馬の脚!』△『後脚の歩き方が細かッございます、馬の脚……』主『モット大きな聲で』×『ヤア武助、巧えぞ、畜生』○『オイオイ然んな賞めやうをすると旦那に怒られて家へ歸つて御前を取られるから、モット眞面目に賞めておやりよ』△『馬の脚!、武助馬ア』×『馬の脚、巧めえぞ』◇『シーツ、静かにしろい』主『褒はねえモット賞めろ』○『馬の後脚、踊ッよりが宜いぞ』△『武助馬アー』◇『シーツ、煩せえやい、馬の御なんぞ賞めやがつて……』客同志で喧嘩をはじめたが、武助はほめられるから嬉しくつて堪まらない、ボンボン跳ねる。前の脚も酔つてるへ食ひ過ぎたから腹ッこなし運動に、花道で馬が大はしやぎ、上の熊谷は落ちないばかり、確かり捉まつて手綱さばきも何もありません。獅子に乗つて後脚の方がヒーンと一聲嘶いたんで見物はドッとよめき、到頭一幕メチャクチャになつて終つた。親方は怒るまいことか、楽屋へ入ると頭取を呼んで、親『馬鹿にしやがつて、あれは何の態だ』頭『イヤどうも何ともハヤあきれましてございます』親『前脚はだれだい』頭『矢張り熊右衛門でございます』親『後脚は』頭『武助でございます』親『ウーム、武助を一寸呼んでくれ』頭『ヘエ……、オイ武助、親方がお呼びだ、仕様がねえぢやアねえか』武『ヘエどうも有難う存じます』頭『何が有難てえんだ』武『親方が來いとおつしやるのは、私の出来がよかつたといふんで御褒美か何か下さるんで』頭『何をいつてやがるんだ馬鹿ッ』武『ヘエ親方、今日はどうも有難う存じます。お蔭樣で大層見物が私のあるきッぷりをほめてくれました』親『馬鹿野郎、何といふざまだ』武『ヘエ、私も大車輪でやりましたが、よッ程はねましたらうか』親『それはマア仕方がねえがてめえ嘶きやアがつたぢやアねえか』武『ヘエ、アノ嘶き處はいかよでございました』親『馬鹿ッ、また分らねえ、嘶くんなら前の方に首がついてるんだから、前あしが嘶かあ、あとあしが嘶くやつがあるか』武『それでも親方、前あしの熊右衛門さんはおならをしました』（終り）

懸賞文藝　情歌「振袖」【本社編輯局選】

天位

重い振袖抱えて引けば　み籤うれしや吉と出る

忠清南道新禮院　岩瀬東雀

地位

立てば振袖座れば裾に　春の香が立つ松の内

全北裡里鞍安方　河原君子

人位

だらり振袖総花模様　動きや明るい春の色

京城櫻井町一丁目　葉山道夫

佳作

白い胸に鈴打ち鳴らし　何を振袖祈るやら　京城　宮崎銀扇子

×

縮し振袖八の字に踏んで　父も見惚る晴踊り　鎮南浦　安本御稚朗

×

晴れの振袖仕立てを急ぐ　京の染屋はなぜ遅い　[illegible]

×

涙でぬらしたこの振袖を　裾からげで新世帯　大阪市　福□一枝

×

重い振袖あげられて　あちらこちらに逃げる羽子　京城　永野愛軍子

×

受けつ振袖渡しつ羽を　春が往き來の手鞠唄　鎮南浦　北村竹志朗

×

いつか思案を抱く振袖の　可愛いあの眼の潤みがち　京城　津田露月冠

×

振りの小袖に主待つ宵を　撫でゝ圓の糸柳　全北　河原君子

×

顔をかくしたその振袖を　もれて可愛いゝ片えくぼ　京城　九馬生

×

暮の逝く夜を振袖着せて　お染さひしい猿芝居　京城　高田壽叢江

×

何でわすりよか振袖あてゝ　泣いて別れたあの日をば　忠南瑞山　奥□古律子

元山府本町三丁目　小山太郎　電話三三七番

元山府本町三丁目　池田藥店　電話三一番

元山府仲町二丁目三六番地　玩具小供帽子洋服靴鞄器　手藝材料其他小供用品專門店　コドモ屋　店主 小島守治

元山府本町三丁目　北谷德一　電話九六八番

元山府本町三丁目　提灯傘看板粧飾品　酒長　電話八五八番

賀正

元山府本町三丁目　各國時計　金銀細工　各種貴金屬　堺屋時計店　電話二一八番

元山府仲町　高野小間物店　電話五七番

元山府旭町二丁目　合資會社　村谷商店　電話三三四九番

元山府旭町一丁目　龜谷商店　電話一〇一番

元山運送業組合

公州本町　朝鮮自動車運輸株式會社　宮本善吉　電話六四番

公州本町　洋雜貨文房具　青年商會　電話一二一番

忠清南道公州郡公州面本町　朝鮮杞柳商會

忠南公州本町　貨物自動車扱　加藤運送店　電話一五八番

忠清北道忠州　鮎川榮司

元山府本町三丁目　小林儀三郎　電話長五五一〇三番

元山水力電氣株式會社

市内バス　市内タクシー　元山府本町四丁目　元山自動車運輸株式會社　金剛山行毎日發車　電話四一九番

元山府洲洞　上田悦太郎

元山名物　磯乃雪　元山　吉野屋

元山府仲町二丁目　鶴屋洋品店　電話二〇一番

元山府仲町一丁目　東書店　電話五五七番

元山府本町二丁目　活版印刷　和洋帳簿　官報賣捌　御用達　三祐堂印刷部　電話八六四番

仁川穀物協會内　仲立組合

仁川濱町　旭屋旅館　電話二五一番

忠南地道製絲組合　組合長　丸山虎之助　電話六一番

忠南公州本町　料理　そば　きしめん　うどん　仕出し　末廣　電話二〇二番

忠南公州旭町　洋品部　呉服部　中畑商店　電話一〇八番

元山府洲洞　藤岡喜一郎

元山府洲洞　矢野榮作

元山府春日町　堀重一

元山府旭町一丁目　元山海産物輸移出商組合（イロハ順）　德興商店　和田[illegible]　加納竹藏　田上淺太郎　頭川太藏　長井商店出張所　ヤマア商店　佐々木準三郎　三由商店　三宅藏次　森野賀壯

仁川宮町　便利舍　電話二二四番

仁川萬町　仁川葬儀社

仁川仲町　丸山組

仁川支那町　洋酒雜貨　廣東料理　義生盛號　電話八一八番

仁川新町　諸紙文具　野田商店　電話四四四番

仁川府本町　海運業　由木商會　電話九二八番

仁川宮町　青島茶店　電話七〇九番

仁川本町　銃砲雜貨　藤木商店　電話四〇番

仁川本町　菓子商　龍榮堂　電話一五五番

仁川府長崎里四〇六　活牛移出　問屋　谷本茂三郎　電話七五三番

仁川山手町　今井省三

仁川花房町　中條榮藏

仁川龍里二〇三　具昌祖

仁川新町　食料雜貨　中村嘉兵衛商店　電話四六一番　五三七番

仁川龍里一〇一　張錫佑

仁川内里　朱命基　電話九一六番

朝鮮總督府指定　金庫製造修繕　建築金物　中川工作所　仁川仲町二丁目　電話五八二四番

仁川稅關　貨物取扱人組合

仁川海岸町　仁川自動車商會　電話六六〇番

全州專賣支局　職員一同

鐵道工業會社　全州詰所

全州大正町二丁目　草野才藏

裡里公立高等女學校　職員一同

全州　大木良作

全州　辯護士　大友歌次

井邑郡廳　職員一同

株式會社　安田銀行京城支店　益川熊一郎

京城府長谷川町五八　朝鮮製藥會社　社長　須藤久左衛門　電話本局一三〇九番

謹賀新年

京城旭町二丁目
犬養帳簿製造所
電話本局二二七九番

京城吉野町一丁目一三二
山室辰之助
電話本局三一〇四番

永樂町二丁目
米穀、燃料、精米用石粉
合資會社 キイ商店
紀伊國陶一
電本二八二七

京城府公平洞八七
大昌貿易會社
電話光化門 七三七番 一二七二番 一四三七番

本町三丁目郵便所
波多江千代藏

京城明治町二丁目
セーウル毛糸店
電話本局二七九番

京城本町二丁目
内山寛正
電話本局 三九四八番 三三五三番

御料理
清和園
京城 泉 三 洞
電話本局一八二七番

京城黄金町
坂井耳鼻咽喉科院
電話本局六四二番

京城竹添町二
金華園
電話光化門一二三二番

京城本町一丁目
ますや呉服店
電話本局四八三番

京城本町二丁目
漆器商
琉球屋商店
電話本局二四四七番

京城本町二丁目
群書堂書店
電話本局三一九五番

京城永樂町一丁目
關理三

京城旭町一丁目
島崎病院
電話本局 二七三六 三六九三番

京城本町二丁目
富三屋帽子店
電話本局三五三八番

京城本町二丁目
高さご
電話本局二六九五番

京城長谷川町
加藤要商店
電話本局一八八八番

京城黄金町二丁目
培文堂 森書店
電話本局三四二一番

京城蓬萊町一丁目
蓬萊食堂
電話本局四三五〇番

京城本町一丁目
井原京城支店
電話本局八三六番

京城永樂町一丁目
村上病院
電話本局三五六七番

京城本町二丁目
永田亭
電話本局八六五番

京城本町四丁目
洋品雜貨 中村傳商店
電話本局三六七八番

營業種目
和洋紙 文房具 諸帳簿 活版印刷 石版 名刺 印刷 活字 鋳造 製本
京城府本町四丁目百卅一番地
合資會社 谷岡商店
電話本局長三四〇番
振替口座京城一六六二番
工場 谷岡印刷部
電話本局一八一四番

電氣器具販賣及修繕
御手洗堂
京城本町三丁目八五
電話本局三三八五番

新年の御壽芽出度申納候
昭和庚午元旦
京城本町ビル
朝鮮一のオモチャ店
子供屋
電話本局二一四八・振替京城一五

朝鮮神宮參道入口
笑福旅館
電話本局 一五五一番 三六一一番

京城黄金町一丁目
裕豐商會
電話本局三七八七番

京城本町二丁目
岩本漆器店
電話本局一一七四番

京城本町二丁目
ギンザ洋裝店
電話本局三四四四番

京城南大門通三丁目
後藤風雲堂京城出張所
電話本局 三八五番 二五七一番

京城黄金町一(三井物産前)
雅叙園
電話本局 二五八二 八六二番

京城若草町
西本組京城支店
電話本局二九五六番

京城永樂町二丁目
植村外科病院
電話本局二七〇番

京城若草町(電停際)
共立殖産合資會社
代表者 清水愛助
電話本局二二九八番

京城本町二丁目一〇二
増田三穂
電話本局一〇九番

京城本町五丁目
愛知縣 蘭谷牛乳
電本三四〇六番

京城本町二ノ二(明治町通り)
貴金屬寶身具製作、並ニ時計類商
土橋金光堂
電話本局一五二二番
振替京城六二七一番

ペンシラ洋行
神山喜一郎
京城明治町二丁目
電話本局三六三九番

京城女髮結組合
葛下つる　松本とみ　佐中かつ　竹本もと　小川りう　川島さく　俵まさ　後藤まさ　二宮きく　小川げん　佐藤はつ　鈴木くに　川崎しま

京城本町二丁目
シノサキ商店
電話本局一八六番 六四八番

京城南大門通五丁目
廣澤旅館
電話本局 八一六番 參貳貳番

京城南米倉町朝市場
海産物委託問屋
㊀商店
電話本局三三五七番

京城旭町(瀬戸病院上)
原田順壽子

京城府本町一丁目
江戸川
電話本局 一四六番 九二八番

京城府黄金町二丁目
村上硝子瓶店
電本三三三四番

京城府本町二丁目
東洋屋
電話本局一三一番

朝鮮總督府正面
光化門ホテル
電光二〇五番

京城府本町一ノ四〇
西洋料理 銀水
電話本局三三二二番

京城府太平通二丁目
日清生命保險 株式會社滿鮮支社
支社長 高澤源三郎
電話本局一四九六番

京城府明治町二丁目
木村屋京城支店
電話本局二八七〇番

京城府□町
松本武正

大石貞七
京城永樂町一ノ八七
電話本局一三二三番

京城府南大門通二丁目
大熊醫科器械店
電話本局 二一七四番 二六七七番

大庭讓太郎

京城府南大門通二丁目
日本タイプライター株式會社
京城出張所
電話本局九二二番

京城府南大門通三丁目
共同火災保險株式會社
京城出張所
電話本局長一七七八番

京城左官業組合

京城内地人辯護士會

京城驛
楠信一

京城府黄金町一丁目
堀田鐵工所
電話本局一五七八番

京城府旭町一丁目
阿川組
阿川重郎
電話本局 一二八番 三四七番

京城府西小門町
第一生命保險相互會社
朝鮮支部長 渡邊退助
電話光化門六三〇番

京城府本町三丁目
紙問屋 望戸力一商店
電話本局一八〇五番

京城府南大門通り三丁目
川勝京城支店
電話本局一〇三二番

京城府明治町頭本町入口
むすめや造花店
電話本局三三一七番

京城府明治町(三越裏)
ワタナベ美粧館
電話本局九五八番
同支部
京城府本町(花月本店前)

京城府本町二丁目
森啓助商店
電話本局二七五九番

各種白生地 御誂京染 絹綿類一切
みのや呉服店
京城本町二丁目
電話本局一四六二番
振替京城六三三八番

京城府南山町二丁目
京城美術倶樂部

京城府古市町四十三番地
京城繩叺株式會社
電話本局四一六四番

京城府黄金町二丁目
加藤商會
電氣商 山田鈴太郎
電話本局長一四七二番

於朝鮮食料品品評會 料理一等賞受領
純朝鮮式建物貳百餘坪 餅洋式樓上二樓貳百坪
食道園
京城南大門通一丁目一六
電光四四一・一五一七番
右記宴會物品具備客 親切迅速周到

京城府南大門通壹丁目貳拾五番地
三國商會
土井誠一

京畿道水原郡水原面梅山里
朝鮮京東鐵道株式會社
電話五十二番

京城自動車販賣者協會
(イロハ順)
日本自動車株式會社出張所
楠本商店
梁瀬自動車株式會社出張所
山本自動車商會
京城自動車株式會社
江川自動車商會
株式會社セール商會

京城旭町一丁目
本券番
電話本局 二六五・一八一八・一〇九七
三一〇・一七二六・二二一六

運命の浪

〔103〕

遠藤柳雨作　多田毅三畫

銃聲の裡に（一）

阿久澤の目は矢のやうに、廊下の人影の方に飛んだ。

「やー、最後の手段だ—」

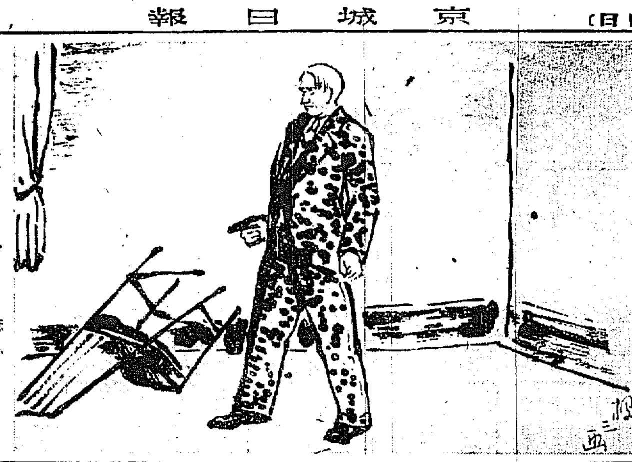
その聲が獣吼の耳に、悪魔ののろひの如くはいつた時、阿修羅王の如く阿久澤の立ち上がる姿が、その目に映じたとみる、隙間、廊下の人の姿は、一度に室内へなだれ込んだ。

「井村、騒ぐな」

「静かにしろ、井村」

口々に叫んだ。

日本から向つた刑事の一隊だつた、後から後からと、顔をだして來た、しかしこれはみな高等係に屬してゐた人達だつたので、制服の巡査ではなかつた、一見若い紳士のやうないでたちをしてゐた。



銃聲かういふ破目になることは知つて居たが、かくも突然迅速的に、殺到しやうとは思はなかつたので、突嗟の場合施す術もなにも、心に浮ばないで、たゞぼんやりしてしまつた。然し彼はさすがに椅子を離れて立つて居た。

「なんだ、貴様たちは—」

阿久澤は大喝した。

「なんだもへちまもない静かにしろ」

「日本の警視廳の命令だ」

「こゝは支那の領土だぞ」

「支那の領土でも、支那官憲の諒解を得てゐるのだ」

と、いひ罵つてゐる内に、その内の一人が眞々と阿久澤に肉迫した、阿久澤は五六歩あとに去るやいなやいきなりそこにあつた椅子に手をかけた。

「抵抗をすると承知せんぞ」

「馬鹿!、俺の相手だ」

途端にうしろから一人近づいた。

前のめりにチグ〳〵といつた。

「えゝ、畜生!」

阿久澤の目からは異光が迸り飛んだ。とみる瞬間であつた、彼の手許は椅子を空間に高く上げた。

「危いぞ」

「注意しろ—」

口々に叫んだ、刑事の一隊はさすがに逡巡した、その間に阿久澤は、背後のドアをあけやうとしたが、彼は常に注意して居たことゝて、

寫眞は電本三九二 ワタナベ

背後の逃げ路の設けてある、室にのみ陣どつて居たのだ。

「ホラ、逃げるぞ」

「逃がすな」

パット一時にいなごの如く、飛びかゝるのだつた、その時阿久澤は、一旦捨てた椅子を持ち上げるが早いか、飛びつく刑事連を目掛て投げた、二人ばかりそれに打たれて、そこに倒れ伏した。

「やつたな」

刑事の一隊は猛りかゝつて、猛烈に阿久澤につづいた、一人は阿久澤の腕のあたりをつかんだ。

突如、後ろ手に摑つた阿久澤は再び手近の椅子をとつて、立ち向かつた、こゝでまた刑事連は、少し後にしりぞいた。

「生命知らず、殺されるぞ」

と、この刹那、混亂が極度でその椅子をたゝき落した、その拍子に阿久澤は、少しのめり加減になつた、その隙に二人がくみついた、すると阿久澤は、體をかゞめて二人を前に投げ飛ばした、それと同時に隠してゐた、ピストルを手早く手に握した。

そして一同の前に仁王立ちになつた。

建築　新刊目録無代進呈　東京神田三崎町三の八四　帝國建築協會

壹円六十銭の　財政顧問

飛躍!!跳躍!! 忽ち三十版

太陽は東にあり　人生は金儲にあり

杉一郎著　金儲實話

定價1圓60錢　送料12錢　四六判450頁

膽略だ!!慧眼だ!あやまたず金儲けの焦點を睨え金權の王者は照尺を正確に所有せる丈だ世間的な人情家も間道を攀ぢれば能く財界の寵兒たり得るのだ。

先覺者西彦老小賣商秘帖／家作の儲け秘法／社會主義者が百萬長者／教職を捨てゝ躍天商人／富倉老人小資本開業法／三助から百萬長者に／月給五拾圓で家作持ち／美容術師の話／高利貸秘話／一商人から一大株屋に／三萬圓作つた女師匠／大道ふ者から金持ちに／會社員から巨萬の富／パン屋の儲け話／月給取りの内職／賭屋主人抑切帖／菓子王森永氏／均一店の草分／萬年筆の先驅—伊藤氏／岡本の先驅山本寶彦氏／淺野總一郎翁一代記／雜誌王野間清治一代記／露領漁區猿猴合戰／露店商の内幕

アツトいふほど面白い!!　アツトいふ程金がたまる!!

先進社　東京市本郷區駒込上富士前　振替東京六五二三八　電話小石川三〇四四・二〇四四

京城本町二丁目　村上寫眞舘本店　電話本局四二三番

林田金次郎

京城府明治町二丁目　野口和三　電話本局一五八七番

龍山驛前　旅館　太陽館　電話龍山一六番

京城府本町二丁目　小林呉服店　電話本局二一五九番

京城本町五丁目三六　末廣屋京染店　電話本局一九〇八番

京城府京町二丁目　御料理　松金　電話本局六八六番

京城府黄金町二丁目　鐵物機械　高尾商店　電話本局二五三五番

京城本町二丁目（明治町通）　永田久次　電話本局一九一〇番

建築請負　和洋家具製作販賣　ロクロ細工一式　深堀工務所　京城府黄金町三ノ一　電話本局三五二〇番

早川看板店　京城府黄金町三丁目

伊豆天壽堂　京城本町三丁目　電話本局一三八八番

一年の計は一月に在り好機逸す可らず
○最進歩したる機械（日本一）
○最堅牢にして美麗なる瓦各種（一見類品に御注意）
銀色萬年瓦　製造販賣　機械工具販賣
（一地方一名限り取引）（早い者が勝）（官衙大會社等よりの指定品）（見本御入用の方は製品見本八錢料五十錢ヲ要ス）
京城府岡崎町一〇一四　電話龍山四八〇番　大阪一營業所代理店　大正コンクリート工業所

クームヒン株式會社　京城府元町一丁目百番地　電話龍山三七〇・四二四番

朝鮮土木建築現業組合　組合長 阿部惣助　常務監査役 佐藤繁一　常務理事 檜田宏

京取市場　所屬仲買人組合員（登錄番號順）

二　大林淺市
三　白井友之助
四　洪殷柱
五　正崎長之助
六　金應龍
七　株式會社德泰公司京城支店
八　山口恒太郎
一〇　京城證券株式會社
一一　成清竹松
一二　松山主計
一六　新田耕市
一八　田中道太郎
二〇　立山榮吉
二三　金潤秀
二六　白樂三

年頭の御挨拶を申上ます
併せて御愛用者各位の御健康を祝福致します

参天セキ薬
セキにヨクキク專門薬

三十錢（二日分）　五十錢（四日分）　一圓（九日分）　三圓（卅日分）

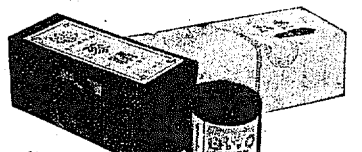
▼各地の藥店にあります▲　直接の御注文は郵便切手で御送金下さい　振替貯金を御利用ならば大阪三六六番へ　代金引換は小包料を要し升から御損です

無代進呈　醫學博士小田俊三先生の著「呼吸器病と喘息及び咯痰の話」（全一冊）及び醫學博士の文献を無代進呈します

大阪市北濱　参天堂株式會社

286

朝鮮から内地への年始の御贈物



博覧會以來、内地の方にも總督府專賣局製造の薬品即ち官製の人參エキスのある事が喧傳され、お土産なぞに買はれた方は全く長壽薬だと、寶玉を貰つたよりも喜ばれます。從來朝鮮からの贈物には人參エキスが一番と云ふ事になりました。「人參で達者に、より長生して下さい」と書き添へて贈る人參エキスは、御貰ひ遊ばす御身内や御親戚や友人方をどの位喜ばされる事でせうか。

一函廿瓦入壹圓五拾錢　二函入三函入五函入等いづれも立派な御贈物として包装いたします。

地方からの御注文は直接當店より發送致します。

專賣局蔘精元賣捌所　貴生堂　京城本町二丁目

長門組

京城南大門通五（日本生命ビルヂング）　森永製品朝鮮販賣株式會社　電話本局一三二四番

京城府岡崎町七六　和洋菓子　鹽瀬　電話龍山七五〇番

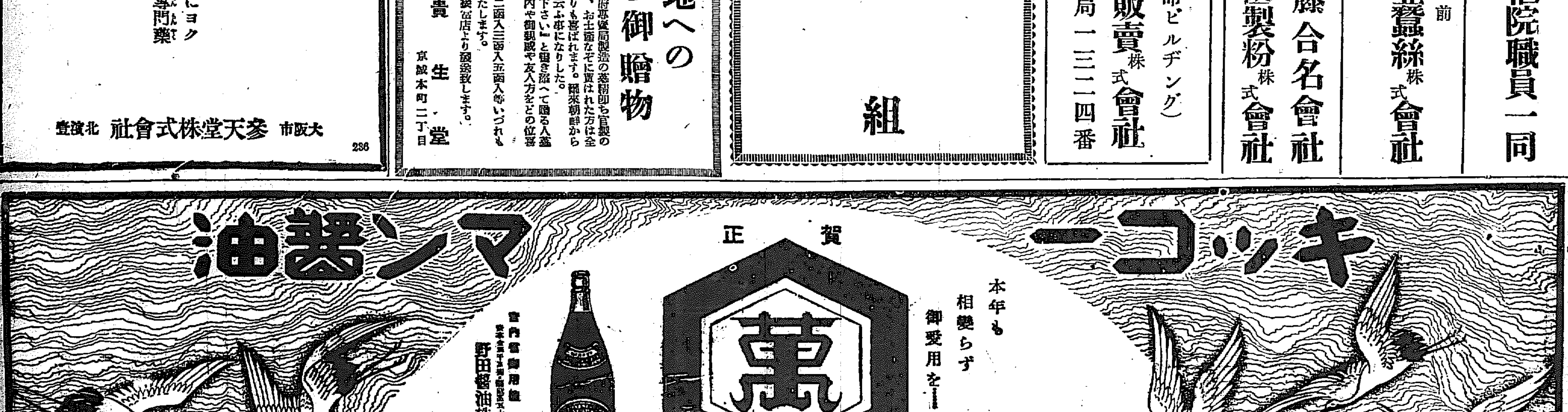
京城府漢江通三　光延丈成　電話龍山八二一番

京城府漢江通三　廣瀬歯科醫院　電話龍山九九六番

龍山三角地　京屋京染呉服店　電話龍山七五一番

中樞院職員一同

龍山驛前　東亞蠶絲株式會社

齋藤合名會社

豐國製粉株式會社